



住まい探しは
ハトマーク

9月23日は不動産の日
「不動産の日アンケート」
住居の居住志向及び購買等に関する意識調査

2023年2月

(公 社) 全 国 宅 地 建 物 取 引 業 協 会 連 合 会
(公 社) 全 国 宅 地 建 物 取 引 業 保 証 協 会

全宅連、全宅保証では、協会活動を一般消費者の方に理解していただくため、9月23日を「不動産の日」と定め、広く一般消費者に周知しておりますが、この度、2022年9月23日～11月30日までホームページを活用した一般消費者向け不動産に関する意識調査を実施し、調査結果がまとまりましたので発表します。

◆（公社）全国宅地建物取引業協会連合会〔略称「全宅連」〕（会長 坂本 久）
全宅連は、法律（宅地建物取引業法）に規定された唯一の全国業者組織です。
不動産業界のなかで最大の業者団体で、免許を受けた全国の宅地建物取引業者の約8割が加盟している団体で、会員である全国47都道府県の社団法人宅地建物取引業協会を通じて、傘下業者の指導育成に努めるとともに、住宅・宅地政策の改善や流通の促進に積極的に取り組んでいます。

◆（公社）全国宅地建物取引業保証協会〔略称「全宅保証」〕（会長 坂本 久）
全宅連を母体として、宅地建物取引業法に基づき設立された保証機関で、全宅保証の主な業務は、消費者からの苦情の解決、会員業者の研修、取引で生じた損害に対する弁済業務の他、手付金等保管事業、宅地建物取引業の健全な発達と資質の向上および消費者の保護を図る業務を行っています。

■調査実施概要	5 P
■調査結果概略	7 P
■調査結果	
Q 1. いま、不動産は買い時だと思いますか？	13 P
Q 1 - A. 買い時だと思う最も近い理由は何ですか？	14 P
Q 1 - B. 買い時だと思わない最も近い理由は何ですか？	15 P
Q 2. あなたは「持ち家派」「賃貸派」どちらですか？（現在のお住まいに関係なく）	16 P
Q 2 - A. 「持ち家派」（一戸建て/マンション・集合住宅含む）の理由を教えてください。	17 P
Q 2 - B. 「賃貸派」（一戸建て/マンション・集合住宅含む）の理由を教えてください。	18 P
Q 3. 住宅を購入するときのポイントは何ですか？	19 P
Q 4. 住宅を借りるときのポイントは何ですか？	20 P
Q 5. 賃貸物件を借りる際、不安に感じることは何ですか？	21 P
Q 6. 天災に対する住まいの意識について当てはまるものを選択してください。	22 P
Q 7. 住まい選びの際、天災への対策として重要視するポイントは何ですか？	23 P
Q 8. ハザードマップについてどの程度知っていますか？	24 P
Q 9. 既存住宅（中古住宅）に抵抗はありますか？	25 P
Q 10. 物件情報はどこから入手しますか？	26 P
Q 11. 物件情報の入手の際、基本情報以外に「あると便利」な情報は何か？	27 P
Q 12. あなたの住まいに対する考えに近いものを選択してください。	28 P
Q 13. 不動産取引において、2022年5月より売買・賃貸契約などの電子契約が解禁されたことを知っていますか？	29 P
Q 13 - A. 不動産取引の電子契約について、売買・賃貸それぞれにあてはまるものを選んでください。	30 P
Q 14. ご自身またはご家族（ご両親等）の家で、将来「空き家」になる、または、既に「空き家」になっている状況がありますか？	31 P
Q 14 - A. 「空き家」について、現在どのような検討をしていますか？	32 P
Q 15. 所有者が高齢などで判断能力が不十分となった場合、不動産の処分や金融資産の利用が制限されることがあることを知っていますか？	33 P
Q 15 - A. 所有者が高齢などで判断能力が不十分となった場合に利用できる制度として知っているものはありますか？	34 P
Q 15 - B. 「所有者不明土地」が発生することを予防するため、相続等によって土地を取得した相続人が、一定の要件のもと、土地を手放して国庫に帰属させることを可能とする「相続土地国庫帰属制度」が、令和5年4月27日からスタートします。この制度について、あてはまるものを全て選んでください。	35 P
Q 16. 「所有者不明土地」が問題となっています。それに伴い令和6年4月1日から相続登記の申請が義務化され、怠ると10万円以下の過料の可能性があることをご存じですか？	36 P

《目次》

Q 1 7. あなたの不動産店に対するイメージとその理由をお答えください。	37 P
Q 1 8. 家の売買や部屋の賃貸をするとき等、不動産店に対して最も期待することは何ですか？	38 P
Q 1 9. 家の売買や部屋の賃貸をするとき等、不動産店の担当者に対して最も期待することは何ですか？	39 P
Q 2 0. 安全な不動産取引ができるお店の証、ハトマークを知っていますか？	40 P

<<住居の居住志向及び購買等に関する意識調査 実施概要>>

■調査期間：2022年9月23日～11月30日

■調査方法：インターネットによるアンケート調査

■調査対象：地域 日本全国
 年齢 20歳以上
 性別 男女その他

■有効回答者数：23,091件

■回答者内訳

◆性別／年代（人）

	全体	20代	30代	40代	50代	60代以上
全体	23091	424	1940	4502	6943	9282
男性	14676	184	640	2148	4421	7283
女性	8192	234	1272	2281	2455	1950
その他	223	6	28	73	67	49

◆職業（人）

	全体	会社員	公務員	自営業	主婦	学生	その他
全体	23091	9337	677	2408	3493	108	7068
男性	14676	6745	552	1958	119	37	5265
女性	8192	2534	118	420	3351	50	1719
その他	223	58	7	30	23	21	84

◆地域ブロック／県（人）

	北海道
北海道	1139

	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県
東北	1222	227	155	381	137	141

	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
関東	9368	354	258	267	1441	1299	3460

	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
中部	3668	329	146	163	117	110	294	320	548	1371

	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
近畿	4388	236	507	1945	1191	319

	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県
中国	1127	88	69	280	495

	徳島県	香川県	愛媛県	高知県
四国	567	105	167	235

	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
九州・沖縄	1612	712	67	170	191	91	103	130

＜＜住居の居住志向及び購買等に関する意識調査 実施概要＞＞

■ 回答者内訳

◆ 現在のお住まいの形態（戸建／マンション）（人）

	全体	一戸建て	マンション・集合住宅
全体	23091	9374	13717
男性	14676	5590	9086
女性	8192	3685	4507
その他	223	99	124
20代	424	232	192
30代	1940	941	999
40代	4502	2081	2421
50代	6943	2955	3988
60代以上	9282	3165	6117
北海道	1139	512	627
東北	1222	324	898
関東	9368	4607	4761
中部	3668	946	2722
近畿	4388	1843	2545
中国	1127	324	803
四国	567	154	413
九州・沖縄	1612	664	948

◆ 現在のお住まいの形態（形態）（人）

	全体	持ち家	賃貸	その他
全体	23091	16821	5945	325
男性	14676	11068	3431	177
女性	8192	5635	2432	125
その他	223	118	82	23
20代	424	264	150	10
30代	1940	1124	780	36
40代	4502	2932	1469	101
50代	6943	4871	1970	102
60代以上	9282	7630	1576	76
北海道	1139	749	375	15
東北	1222	899	291	32
関東	9368	6727	2542	99
中部	3668	2877	730	61
近畿	4388	3248	1078	62
中国	1127	844	265	18
四国	567	424	137	6
九州・沖縄	1612	1053	527	32

◆ 現在のお住まいの形態（広さ）（人）

	全体	ワンルーム～1DK	2K～2LDK	3K～3LDK	4K～4LDK	5K～5LDK	6K以上
全体	23091	2050	3412	6733	5657	2738	2501
男性	14676	1228	1975	4119	3731	1863	1760
女性	8192	782	1407	2535	1886	864	718
その他	223	40	30	79	40	11	23
20代	424	118	72	106	54	48	26
30代	1940	363	374	546	387	127	143
40代	4502	548	822	1442	994	354	342
50代	6943	629	1074	2157	1711	730	642
60代以上	9282	392	1070	2482	2511	1479	1348
北海道	1139	135	218	252	326	128	80
東北	1222	81	180	278	266	201	216
関東	9368	1006	1552	3084	2269	850	607
中部	3668	258	422	815	925	573	675
近畿	4388	322	568	1405	1148	502	443
中国	1127	74	151	263	245	179	215
四国	567	43	82	145	118	83	96
九州・沖縄	1612	131	239	491	360	222	169

◆ 現在のお住まいの形態（居住年数）（人）

	全体	1年未満	1～3年	4～6年	7～9年	10～12年	13～15年	16年以上
全体	23091	627	1381	2012	1602	2212	1742	13515
男性	14676	363	719	1107	912	1295	1066	9214
女性	8192	250	653	879	670	879	654	4207
その他	223	14	9	26	20	38	22	94
20代	424	68	60	78	22	30	38	128
30代	1940	106	299	399	228	225	85	598
40代	4502	155	367	521	476	698	414	1871
50代	6943	167	363	510	466	694	635	4108
60代以上	9282	131	292	504	410	565	570	6810
北海道	1139	82	80	83	79	92	89	634
東北	1222	35	80	127	76	120	81	703
関東	9368	235	557	912	757	975	744	5188
中部	3668	82	202	297	221	343	262	2261
近畿	4388	102	219	338	282	356	334	2757
中国	1127	28	72	68	63	99	86	711
四国	567	10	43	50	24	56	36	348
九州・沖縄	1612	53	128	137	100	171	110	913

■ 不動産の買い時感

- ・2022年度調査においては、「買い時だと思う」6.4%、「買い時だと思わない」26.4%、「分からない」67.2%となった。2021年度と比較して「買い時だと思う」が4.1pt減少、「買い時だと思わない」はほぼ横ばいの0.8pt増加、「分からない」が3.3pt増加となり、買い時感が薄れる結果となった。
- ・買い時だと思う理由では、「今後、住宅ローンの金利が上昇しそうなので（今の金利が低いので）」が36.8%と最も多く挙げられ、「住宅ローン減税など住宅取得の為の支援制度が充実しているから」が30.5%と続く。
- ・買い時だと思わない理由では、「自分の収入が不安定または減少しているから」が26.0%と最も多かった。

買い時だと思う	買い時だと思わない	分からない
6.4% (-4.1pt)	26.4% (+0.8pt)	67.2% (+3.3pt)

買い時だと思う理由TOP 3	買い時だと思わない理由TOP 3
今後、住宅ローンの金利が上昇しそうなので（今の金利が低いので） 36.8% (+14.3pt)	自分の収入が不安定または減少しているから 26.0% (-0.5pt)
住宅ローン減税など住宅取得の為の支援制度が充実しているから 30.5% (-10.9pt)	不動産価値（価格）が下落しそうだから 19.4% (-9.4pt)
不動産価値（価格）が安定または上昇しそうだから 22.3% (-0.2pt)	住宅ローン減税など税制優遇が見直されそうだから 12.7% (+4.4pt)

■ 持ち家派 or 賃貸派（現居住形態問わず）

- ・「持ち家派」は77.9%と全体の約8割を占めている。
- ・持ち家派の理由は「家賃を払い続けることが無駄に思えるから」が48.0%と過半数近くになった。
- ・賃貸派の理由は「住宅ローンに縛られたくないから」が39.7%と最も多かった。

持ち家派	賃貸派
77.9% (-1.7pt)	22.1% (+1.7pt)

持ち家派 理由 TOP 3	賃貸派 理由 TOP 3
家賃を払い続けることが無駄に思えるから 48.0% (-2.9pt)	住宅ローンに縛られたくないから 39.7% (-1.9pt)
落ち着きたいから 28.5% (-3.1pt)	天災が起こった時に家を所有していることがリスクになると思うから 28.7% (-3.5pt)
老後の住まいが心配だから 24.4% (-2.5pt)	税金が大変だから 25.8% (+1.4pt)

■ 住宅購入重視点／賃貸住宅重視点

- ・住宅購入時に重視する点について、「購入金額」が53.2%、「周辺・生活環境がよい」が36.5%。
- ・賃貸時に重視する点については「家賃」が64.3%と最も多く挙げられた。
- ・昨今の新型コロナウイルスの影響もあり、住宅購入重視点、賃貸住宅重視点ともに、「医療機関が近くにある」も5.0%程度見受けられた。

住宅購入重視点 TOP 3	賃貸重視点 TOP 3
購入金額 53.2% (-2.7pt)	家賃 64.3% (-6.0pt)
周辺・生活環境がよい 36.5% (-8.8pt)	交通の利便性がよい 39.6% (-5.6pt)
交通の利便性がよい 33.1% (-2.6pt)	周辺・生活環境がよい 29.9% (-5.6pt)

■ 賃貸物件を借りる際の不安なこと

- ・「家賃を払い続けることができるか」が31.6%と最も多く挙げられ、「近隣住民との付き合い方」が24.3%で次点となった。

賃貸物件契約時の不安 TOP3	
家賃を払い続けることができるか	31.6% (-1.0pt)
近隣住民との付き合い方	24.3% (-10.4pt)
連帯保証人をお願いできる人がいない	23.6% (+1.8pt)

■ 天災に関する住まいの意識

- ・「築年数や構造（免震・耐震）について考えるようになった」が40.7%と最も多く、次いで「緊急避難場所や防災マップ・ハザードマップを意識するようになった」が30.9%となった。

天災に対する住まいの意識 TOP3	
築年数や構造（免震・耐震）について考えるようになった	40.7% (-4.2pt)
緊急避難場所や防災マップ・ハザードマップを意識するようになった	30.9% (-8.4pt)
地盤などの状況を意識するようになった	25.6% (-5.4pt)

■ 住まい選びで天災への対策として重要視するポイント

- ・「構造（免震・耐震性）」が55.7%、「立地（地盤の強度）」が49.7%と、それぞれ約半数を占めた。
- ・地震に対する対策が重要視されていることが顕著に表れていることが見てとれる。

天災への対策として重要視するポイント TOP3	
構造（免震・耐震性）	55.7% (-4.9pt)
立地（地盤の強度）	49.7% (-5.7pt)
築年数	36.8% (-1.2pt)

■ ハザードマップについての認知と理解

- ・「住んでいる地域のハザードマップを見たことがある」が41.4%で最多。
- ・「聞いたことがあり内容も知っている」が34.3%と次いで、認知・関心が高いことが見てとれる。

ハザードマップの認知・理解 TOP3	
住んでいる地域のハザードマップを見たことがある	41.4% (-6.9pt)
聞いたことがあり内容も知っている	34.3% (-3.4pt)
住んでいる地域のハザードマップを実際に調べたことがある	23.5% (-4.0pt)

■ 既存住宅（中古住宅）に関する抵抗感

- ・「まったく抵抗がない」と回答したのは13.7%、「きれいであれば抵抗はない」が最も多く35.8%、あわせて49.5%と半数近くが抵抗感が薄い結果となった。
- ・一方で、「どんな状態であろうと抵抗がある」のは18.1%と、2021年度から増加しており、抵抗感については二極化しつつあることが窺える。

まったく抵抗がない	きれいであれば抵抗はない	売買金額と状態の バランスを見て判断する	どんな状態であろうと抵抗がある
13.7% (+0.3pt)	35.8% (+0.6pt)	32.3% (-4.0pt)	18.1% (+2.9pt)

■ 物件情報入手経路

- ・「インターネット」が64.4%と最も多く挙げられた。
- ・大きく間をあけて「不動産店へ直接行く」が31.3%で次点となった。

物件情報入手経路 TOP3	
インターネット	64.4% (-7.3pt)
不動産店へ直接行く	31.3% (-2.4pt)
新聞折込チラシ	20.4% (-4.1pt)

■ 物件情報の入手の際、基本情報以外に「あると便利」な情報

- ・「物件の写真」が63.1%と最も多く挙げられ、「周辺物件の相場」が39.9%、「物件の品質情報（省エネ・耐震等）」が27.5%と続く。
- ・物件の写真などの視覚的情報だけではなく、品質情報や周辺物件の相場など、周辺情報にも関心を寄せている傾向にある。

物件情報の入手の際、基本情報以外に「あると便利」な情報 TOP3	
物件の写真	63.1% (-4.8pt)
周辺物件の相場	39.9% (-3.7pt)
物件の品質情報（省エネ・耐震等）	27.5% (-3.4pt)

■ 住まいに対する考え

- ・「好きなときに転居しやすい住環境が良い」が29.1%とトップとなった。
- ・次点は、「田舎での生活など自然のある住環境が良い」が25.5%、「親世帯と子世帯が近い距離で暮らせる住環境が良い」が21.2%と続く。

住環境への意識 TOP3	
好きなときに転居しやすい住環境が良い	29.1% (-1.5pt)
田舎での生活など自然のある住環境が良い	25.5% (-4.6pt)
親世帯と子世帯が近い距離で暮らせる住環境が良い	21.2% (-5.5pt)

■ 2022年5月より解禁した「売買・賃貸契約などの電子契約」の認知度

- ・「知っている」は6.3%、「聞いたことがある」は21.4%で計27.7%、「知らない」は72.2%と、解禁後、半年程度経過しているものの、認知度は低いことが分かった。

知っている	知らない	聞いたことがある
6.3%	72.2%	21.4%

■ 不動産取引の電子契約の意識

- ・売買取引については、「印紙税非課税のメリットがあるなら利用したい」が20.5%でトップとなったが、「書面の方が安心だ」も20.0%で僅差となった。
- ・賃貸取引については、「利用しない」が23.1%で最も高く、次点で「書面の方が安心だ」が19.9%。売買、賃貸総じて積極的利用への意向が低い結果が見てとれる。

不動産取引の電子契約の意識【売買】 TOP3	
印紙税非課税のメリットがあるなら利用したい	20.5%
書面の方が安心だ	20.0%
積極的に利用したい	13.5%

不動産取引の電子契約の意識【賃貸】 TOP3	
利用しない	23.1%
書面の方が安心だ	19.9%
積極的に利用したい	7.5%

■ 自身または家族の空き家の状況

- ・空き家は「ない」が45.6%でトップとなった。
- ・次点で「わからない」が28.5%であり、「既に『空き家』になっている」「将来『空き家』になる可能性がある」をあわせて25.9%。「わからない」も含めた「空き家」保有者となる潜在層は過半数以上となっている。

既に「空き家」になっている	将来「空き家」になる可能性がある	わからない	ない
6.1%	19.8%	28.5%	45.6%

■ 空き家についての検討状況

- ・「放置・何も考えていない」が35.6%で最多。次いで、「話し合いの必要を感じつつもまだ行っていない」が19.4%と、具体的な行動に移せていない方が過半数となった。

空き家についての検討状況 TOP3	
放置・何も考えていない	35.6%
話し合いの必要を感じつつもまだ行っていない	19.4%
家族（親子）で話し合いを進めている	11.3%

■ 所有者が高齢などで判断能力が不十分となった場合、不動産の処分や金融資産の利用が制限されることへの認知度

- ・「知らない」が59.4%で過半数以上を占めており、「聞いたことがある」が29.9%と、認知・理解が進んでいないことが見てとれる。

知っている	聞いたことがある	知らない
10.8%	29.9%	59.4%

■所有者が高齢などで判断能力が不十分となった場合、利用できる制度への認知度

- ・「成年後見制度」が39.9%で最も多く、次点は「家族信託」が15.5%、「任意後見制度」が15.0%となった。
- ・一方、制度として知っているものは「ない」は40.8%と、利用できる制度を知らない方は約4割にのぼる。

所有者が高齢などで判断能力が不十分となった場合、利用できる制度への認知度 TOP3	
成年後見制度	39.9%
家族信託	15.5%
任意後見制度	15.0%

■令和5年4月より開始する「相続土地国庫帰属制度」の意識

- ・「興味がない」「制度を知らない」がそれぞれ32.7%と、制度開始への意識は希薄なことが明らかとなった。
- ・「利用したい」はわずか3.8%に留まっている。

「相続土地国庫帰属制度」の意識 TOP3	
興味がない	32.7%
制度を知らない	32.7%
聞いたことがあるが詳しい内容は知らない	17.6%

■令和6年4月より、相続登記の申請が義務化され、 怠ると10万円以下の過料の可能性があることへの認知度

- ・「知らない」が43.8%とトップ、次点で「興味がない」が28.7%となった。
- ・「聞いたことはあるが詳しい内容は知らない」が14.0%と、不動産関連の制度や義務について、いずれも認知関心度は低いことが見てとれる。

相続登記の申請の義務化や過料の認知度 TOP3	
知らない	43.8%
興味がない	28.7%
聞いたことはあるが詳しい内容は知らない	14.0%

■不動産店に対するイメージ

- ・「良い・計」が13.8%となっており、2021年度より減少（-10.0pt）。
- ・「普通」が58.5%（+4.0pt）と増加し、全体の過半数以上を占める。
- ・「悪い・計」が27.6%で、2021年度と比較し+5.9ptとなり、不動産店のイメージが昨年と比較しやや悪化していることが分かる。

不動産店に対するイメージ	
良い・計	13.8%（-10.0pt）
普通	58.5%（+4.0pt）
悪い・計	27.6%（+5.9pt）

■ 不動産店に対して最も期待すること

- ・「優秀な担当者」が38.0%と最も多く挙げられ、次いで「店舗の雰囲気が良い」が13.6%。
- ・2020年度から引き続き“担当者”への期待が突出している結果となった。

不動産店に対して、最も期待すること	
優秀な担当者	38.0% (-3.3pt)
店舗の雰囲気が良い	13.6% (-1.4pt)
自宅から近い	12.0% (+3.0pt)

■ 不動産店の担当者に対して、最も期待すること

- ・「わかりやすい説明」が32.9%と最も多く挙げられた。
- ・業務のスキルや専門知識とともに、接客態度についても重視していることが分かる。

不動産店の担当者に対して、最も期待すること	
わかりやすい説明	32.9% (+0.5pt)
メリットだけではなく、全て隠さず情報を伝えてくれること	19.2% (-2.2pt)
丁寧な接客	15.2% (-1.0pt)

■ ハトマークの認知

- ・「見たこともあるし不動産店の信頼の目印であることも知っている」が24.2%となり、2021年度と比べて-8.8pt認知度が下がる結果となった。

ハトマークの認知	
見たこともあるし不動産店の信頼の目印であることも知っている	24.2% (-8.8pt)
見たことがあるが何のマークか知らない	39.3% (+5.2pt)
見たことがないし何のマークか知らない	36.5% (+3.7pt)

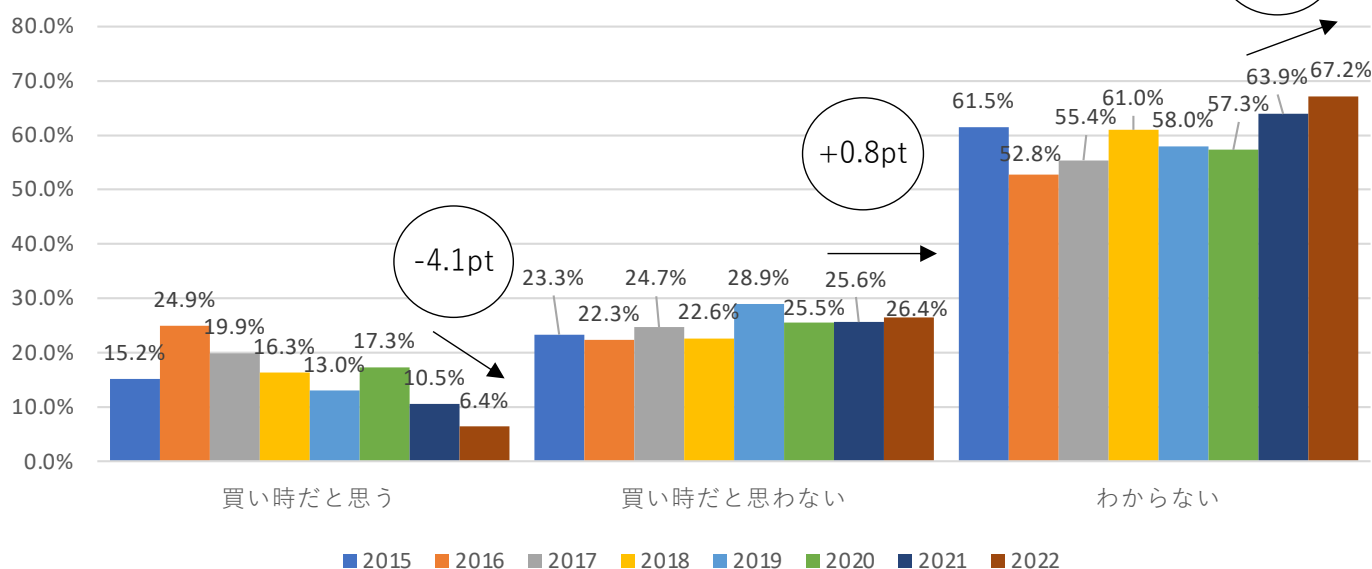
Q 1. いま、不動産は買い時だと思いますか？（1つ選択）

■「買い時だと思う」が過去最低水準、「買い時だと思わない」は横ばい

■「買い時だと思う」6.4%（-4.1pt）／「買い時だと思わない」26.4%（+0.8pt）

- ◆ 2022年度調査においては、「買い時だと思う」6.4%、「買い時だと思わない」26.4%、「わからない」67.2%となった。
- ◆ 2021年度に引き続き、買い時感は弱まっており、2022年度は「買い時だと思う」が4.1pt減少し、過去最低水準。
- ◆ 「わからない」の回答は過去最高水準の数値となり、判断が困難な状況にあることが感じ取れる。
- ◆ 「買い時だと思う」の回答は、20代のみ2021年度より大幅に増加し、他世代では減少している。

< 2015年度～2022年度 不動産の買い時感：全体 >



	買い時だと思う								買い時だと思わない								分からない							
	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
全体	15.2%	24.9%	19.9%	16.3%	13.0%	17.3%	10.5%	6.4%	23.3%	22.3%	24.7%	22.6%	28.9%	25.5%	25.6%	26.4%	61.5%	52.8%	55.4%	61.0%	58.0%	57.3%	63.9%	67.2%
■ 性別																								
男性	15.2%	28.1%	20.9%	14.9%	11.8%	20.8%	10.6%	6.8%	6.3%	24.9%	28.0%	25.9%	32.1%	25.8%	27.6%	27.5%	58.4%	47.0%	51.0%	59.2%	56.1%	53.5%	61.8%	65.8%
女性	15.2%	22.3%	19.0%	17.8%	14.2%	11.4%	10.4%	5.7%	19.4%	20.3%	21.8%	18.9%	25.8%	24.7%	22.1%	24.4%	65.4%	57.5%	59.2%	63.3%	60.0%	63.9%	67.5%	69.9%
その他	-	-	-	18.1%	15.8%	15.1%	10.0%	9.0%	-	-	-	30.0%	29.1%	38.1%	31.8%	34.1%	-	-	-	51.9%	55.1%	46.8%	58.2%	57.0%
■ 年代																								
20代	17.5%	24.3%	21.7%	27.6%	22.9%	44.7%	18.1%	29.2%	29.0%	27.1%	27.8%	22.5%	29.6%	20.6%	29.1%	18.4%	53.6%	48.5%	50.6%	49.9%	47.5%	34.7%	52.8%	52.4%
30代	22.8%	29.4%	24.6%	23.7%	19.1%	28.0%	16.5%	8.2%	21.8%	21.9%	24.6%	25.1%	30.2%	26.5%	30.9%	32.8%	55.4%	58.7%	50.7%	51.3%	50.7%	45.5%	52.6%	59.0%
40代	14.7%	24.2%	20.0%	16.4%	12.7%	19.0%	13.1%	6.8%	21.9%	20.6%	23.1%	22.4%	28.5%	26.7%	26.8%	29.1%	63.4%	55.2%	56.9%	61.2%	58.8%	54.3%	60.1%	64.0%
50代	12.2%	21.7%	15.0%	12.4%	8.7%	14.2%	8.4%	5.3%	23.8%	20.0%	24.3%	22.4%	28.3%	24.5%	24.9%	27.1%	64.0%	58.3%	60.7%	65.3%	62.9%	61.2%	66.7%	67.6%
60代以上	11.7%	19.9%	14.5%	11.6%	7.9%	8.3%	8.0%	5.6%	23.0%	21.3%	23.9%	21.6%	28.6%	26.1%	23.3%	23.7%	65.3%	58.8%	61.6%	66.9%	63.5%	65.6%	68.7%	70.7%
■ 地域																								
北海道	13.4%	20.9%	19.2%	16.5%	15.2%	11.8%	11.5%	8.2%	21.6%	24.0%	27.9%	24.2%	27.4%	23.5%	24.3%	25.6%	65.1%	55.1%	52.9%	59.3%	57.4%	64.7%	64.2%	66.2%
東北	14.5%	24.1%	19.9%	17.7%	12.4%	12.2%	10.9%	6.3%	24.2%	21.2%	24.1%	23.1%	26.1%	26.2%	25.5%	27.0%	61.3%	54.7%	56.0%	59.1%	61.5%	61.6%	63.6%	66.7%
関東	16.1%	26.2%	19.7%	15.6%	12.3%	25.8%	10.5%	7.0%	24.4%	24.6%	28.5%	24.6%	31.6%	24.4%	26.7%	28.6%	59.5%	49.2%	51.8%	59.8%	56.1%	49.7%	62.8%	64.4%
中部	13.6%	24.5%	19.9%	16.1%	13.1%	10.4%	10.5%	6.1%	23.7%	22.0%	21.9%	21.3%	28.5%	26.6%	24.6%	24.8%	62.7%	53.6%	58.2%	62.6%	58.4%	63.0%	64.8%	69.1%
近畿	16.0%	25.0%	21.2%	17.1%	13.4%	10.1%	9.3%	6.2%	22.5%	20.6%	22.4%	21.7%	28.0%	27.5%	25.2%	24.6%	61.5%	54.4%	56.4%	61.1%	58.5%	62.3%	65.5%	69.2%
中国	12.0%	25.0%	20.2%	15.4%	12.9%	10.9%	11.6%	3.8%	20.2%	18.4%	20.1%	20.8%	27.5%	27.6%	25.0%	24.9%	67.8%	56.6%	59.7%	63.8%	59.6%	61.5%	63.4%	71.3%
四国	13.4%	22.8%	17.3%	17.5%	13.7%	9.8%	12.6%	4.2%	22.2%	22.6%	26.1%	19.6%	27.0%	26.1%	26.0%	27.7%	64.4%	54.6%	56.6%	62.9%	59.3%	64.1%	61.5%	68.1%
九州・沖縄	16.4%	24.0%	19.6%	17.4%	14.2%	12.1%	11.4%	5.6%	22.0%	20.6%	21.8%	19.6%	25.1%	23.6%	23.9%	23.5%	61.5%	55.5%	58.6%	63.0%	60.6%	64.3%	64.7%	70.9%

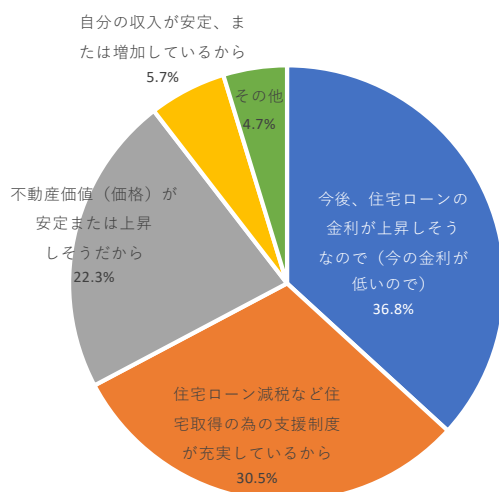
Q 1 - A. 買い時だと思う最も近い理由は何ですか？（1つ選択）（買い時だと思う人のみ）

- 「今後、住宅ローンの金利が上昇しそうなので（今の金利が低いので）」36.8%（+14.3pt）
- 「住宅ローン減税など住宅取得の為の支援制度が充実しているから」30.5%（-10.9pt）
- 「不動産価値（価格）が安定または上昇しそうだから」22.3%（-0.2pt）

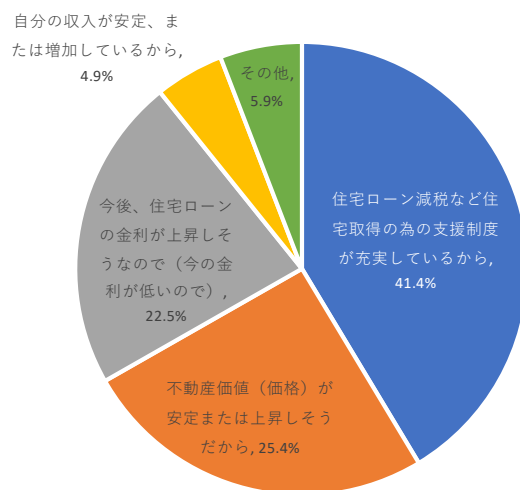
◆ 2021年度は3位だった「今後、住宅ローンの金利が上昇しそうなので（今の金利が低いので）」が1位になる結果となった。最多の四国と最少の北海道では、27.4ptもの差が出る結果となった。

<2022年度 不動産が買い時だと思う理由（買い時だと思う人のみ）>

<2022年度>



<2021年度>



	(N=)	今後、住宅ローンの金利が上昇しそうなので（今の金利が低いので）	住宅ローン減税など住宅取得の為の支援制度が充実しているから	不動産価値（価格）が安定または上昇しそうだから	自分の収入が安定、または増加しているから	その他
全体	1481	36.8%	30.5%	22.3%	5.7%	4.7%
■性別						
男性	992	38.5%	30.7%	20.5%	5.5%	4.7%
女性	469	32.8%	30.1%	26.9%	5.3%	4.9%
その他	20	45.0%	25.0%	5.0%	25.0%	0.0%
■年代						
20代	124	27.4%	51.6%	17.7%	1.6%	1.6%
30代	159	37.1%	28.9%	23.3%	5.7%	5.0%
40代	308	34.7%	29.9%	21.8%	8.8%	4.9%
50代	367	33.5%	32.2%	20.4%	7.9%	6.0%
60代以上	523	42.4%	25.0%	24.7%	3.4%	4.4%
■地域						
北海道	93	22.6%	48.4%	18.3%	4.3%	6.5%
東北	77	32.5%	35.1%	29.9%	1.3%	1.3%
関東	660	37.9%	28.2%	21.7%	6.7%	5.6%
中部	223	41.3%	26.0%	22.9%	5.4%	4.5%
近畿	271	37.3%	30.3%	22.5%	6.3%	3.7%
中国	43	25.6%	39.5%	23.3%	7.0%	4.7%
四国	24	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%
九州・沖縄	90	36.7%	33.3%	21.1%	4.4%	4.4%

【2022年度 TOP3】

- 1 今後、住宅ローンの金利が上昇しそうなので（今の金利が低いので）（36.8%）
- 2 住宅ローン減税など住宅取得の為の支援制度が充実しているから（30.5%）
- 3 不動産価値（価格）が安定または上昇しそうだから（22.3%）

【2021年度 TOP3】

- 1 住宅ローン減税など住宅取得の為の支援制度が充実しているから（41.4%）
- 2 不動産価値（価格）が安定または上昇しそうだから（25.4%）
- 3 今後、住宅ローンの金利が上昇しそうなので（今の金利が低いので）（22.5%）

【2020年度 TOP3】

- 1 住宅ローン減税など住宅取得の為の支援制度が充実しているから（36.6%）
- 2 住宅ローンの金利が上昇しそうなので・今の金利が低いので（22.8%）
- 3 不動産価値が安定または上昇しそうだから（22.5%）

【2019年度 TOP3】

- 1 住宅ローン減税など消費税増税に係る支援制度が拡充されているから（51.1%）
- 2 住宅ローンの金利が上昇しそうなので・今の金利が安いので（23.4%）
- 3 不動産価値が安定または上昇しそうだから（18.0%）

【2018年度 TOP3】

- 1 消費税率が上がる前だから（45.0%）
- 2 住宅ローン減税など税制優遇が実施されているから（25.3%）
- 3 住宅ローンの金利が上昇しそうなので・今の金利が安いので（13.7%）

【2017年度 TOP3】

- 1 住宅ローン減税など税制優遇が実施されているから（34.5%）
- 2 住宅ローンの金利が上昇しそうなので・今の金利が低いので（23.2%）
- 3 消費税率が上がる前だから（22.3%）

Q 1 - B. 買い時だと思わない最も近い理由は何ですか？（1つ選択）
（買い時だと思わない人のみ）

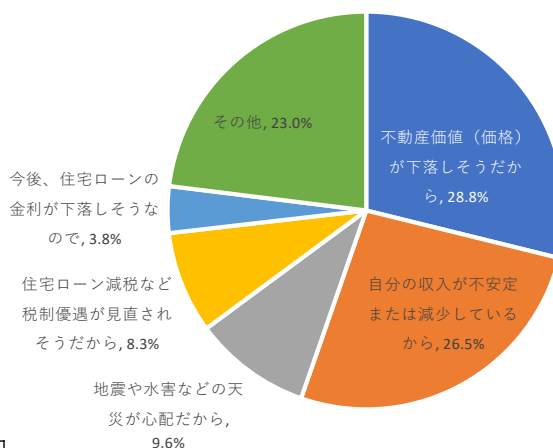
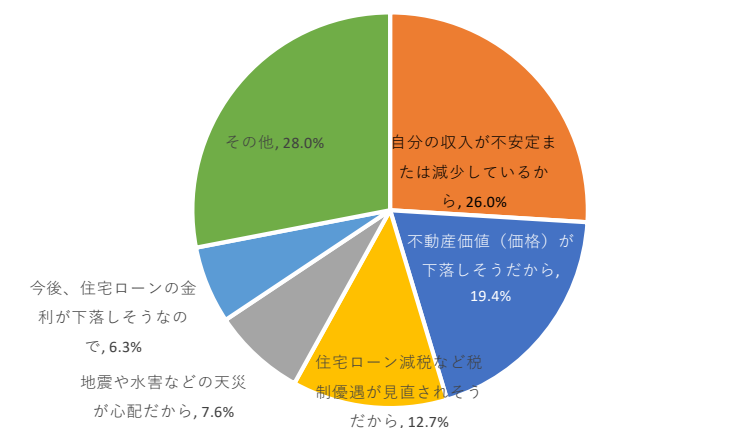
- 「自分の収入が不安定または減少しているから」 26.0% (-0.5pt)
- 「不動産価値（価格）が下落しそうだから」 19.4% (-9.4pt)
- 「住宅ローン減税など税制優遇が見直されそうだから」 12.7% (+4.4pt)

- ◆ 2021年度は2位であった「自分の収入が不安定または減少しているから」は26.0%で1位の理由に。男女では差がなく、年代別では30代が最多となった。
- ◆ 「住宅ローン減税など税制優遇が見直されそうだから」が2021年度と比較して4.4pt増加の12.7%となった。
- ◆ 20代では「今後、住宅ローンの金利が下落しそうなので」の割合が15.4%と、他の年代よりも高く、税制優遇や金利を踏まえた購入機会を窺っていることが見てとれる。

<2022年度 不動産が買い時だと思わない理由（買い時だと思わない人のみ）>

<2022年度>

<2021年度>



	(N=)	自分の収入が不安定または減少しているから	不動産価値（価格）が下落しそうだから	住宅ローン減税など税制優遇が見直されそうだから	地震や水害などの天災が心配だから	今後、住宅ローンの金利が下落しそうなので	その他
全体	6104	26.0%	19.4%	12.7%	7.6%	6.3%	28.0%

■性別							
男性	4033	26.1%	21.4%	12.1%	6.8%	5.7%	27.8%
女性	1995	26.1%	15.6%	13.5%	8.7%	7.4%	28.6%
その他	76	15.8%	9.2%	21.1%	18.4%	13.2%	22.4%

■年代							
20代	78	25.6%	12.8%	10.3%	10.3%	15.4%	25.6%
30代	637	31.6%	19.0%	13.0%	8.0%	10.7%	17.7%
40代	1311	25.3%	18.5%	14.4%	10.1%	7.1%	24.6%
50代	1882	26.0%	17.6%	11.8%	7.3%	6.3%	30.9%
60代以上	2196	24.7%	21.8%	12.4%	6.1%	4.3%	30.7%

■地域							
北海道	292	25.7%	16.8%	16.8%	7.2%	6.5%	27.1%
東北	330	27.9%	16.7%	13.3%	7.9%	7.9%	26.4%
関東	2676	24.6%	22.0%	12.2%	7.7%	5.9%	27.6%
中部	910	28.9%	15.8%	13.7%	9.0%	5.2%	27.4%
近畿	1079	24.2%	20.8%	11.9%	6.8%	7.5%	28.9%
中国	281	26.7%	14.9%	16.4%	3.9%	6.8%	31.3%
四国	157	27.4%	22.3%	11.5%	8.3%	7.0%	23.6%
九州・沖縄	379	31.4%	11.9%	10.0%	8.7%	6.3%	31.7%

【2022年度 TOP3】

- 1 自分の収入が不安定または減少しているから(26.0%)
- 2 不動産価値（価格）が下落しそうだから(19.4%)
- 3 住宅ローン減税など税制優遇が見直されそうだから(12.7%)

【2021年度 TOP3】

- 1 不動産価値（価格）が下落しそうだから(28.8%)
- 2 自分の収入が不安定または減少しているから(26.5%)
- 3 地震や水害などの天災が心配だから(9.6%)

【2020年度 TOP3】

- 1 不動産価値が下落しそうだから(31.3%)
- 2 自分の収入が不安定または減少しているから(24.4%)
- 3 地震や水害などの天災が心配だから(8.2%)

【2019年度 TOP3】

- 1 不動産価値が下落しそうだから(26.8%)
- 2 自分の収入が不安定または減少しているから(21.0%)
- 3 消費税率が上がったから(16.6%)

【2018年度 TOP3】

- 1 不動産価値が下落しそうだから(29.8%)
- 2 自分の収入が不安定または減少しているから(23.1%)
- 3 地震や水害などの天災が心配だから(13.7%)

【2017年度 TOP3】

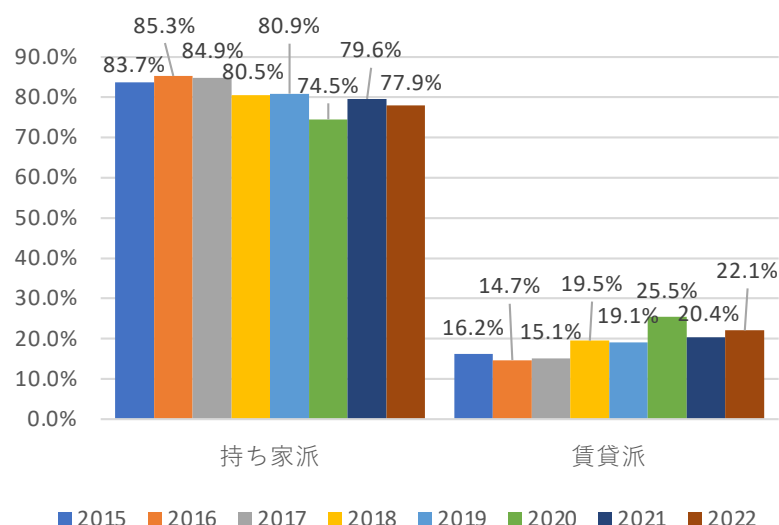
- 1 自分の収入が不安定または減少しているから(38.6%)
- 2 不動産価格が下落しそうだから(33.7%)
- 3 地震などの天災が心配だから(10.3%)

Q 2. あなたは「持ち家派」「賃貸派」どちらですか？（現在のお住まいに関係なく）
（1つ選択）

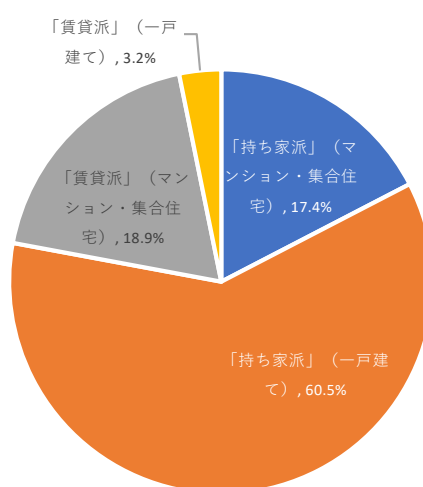
■「持ち家派」77.9%（-1.7pt）【一戸建て60.5%（-1.9pt）+ マンション17.4%（+0.2pt）】
■「賃貸派」22.1%（+1.7pt）【一戸建て3.2%（-0.1pt）+ マンション18.9%（+1.8pt）】

- ◆「持ち家派」は、2021年度から1.7pt減少し77.9%となるも、全体の8割近くを占めている。
- ◆男女別、年代別、地域別で見ても、2021年度に比べ「持ち家派」が減少し、「賃貸派」が増加した。

<2015年度～2022年度 持ち家派 or 賃貸派>



<2022年度 持ち家派 or 賃貸派 詳細内訳>



<2015年度～2022年度 持ち家派 or 賃貸派 : 性別/年代/地域別>

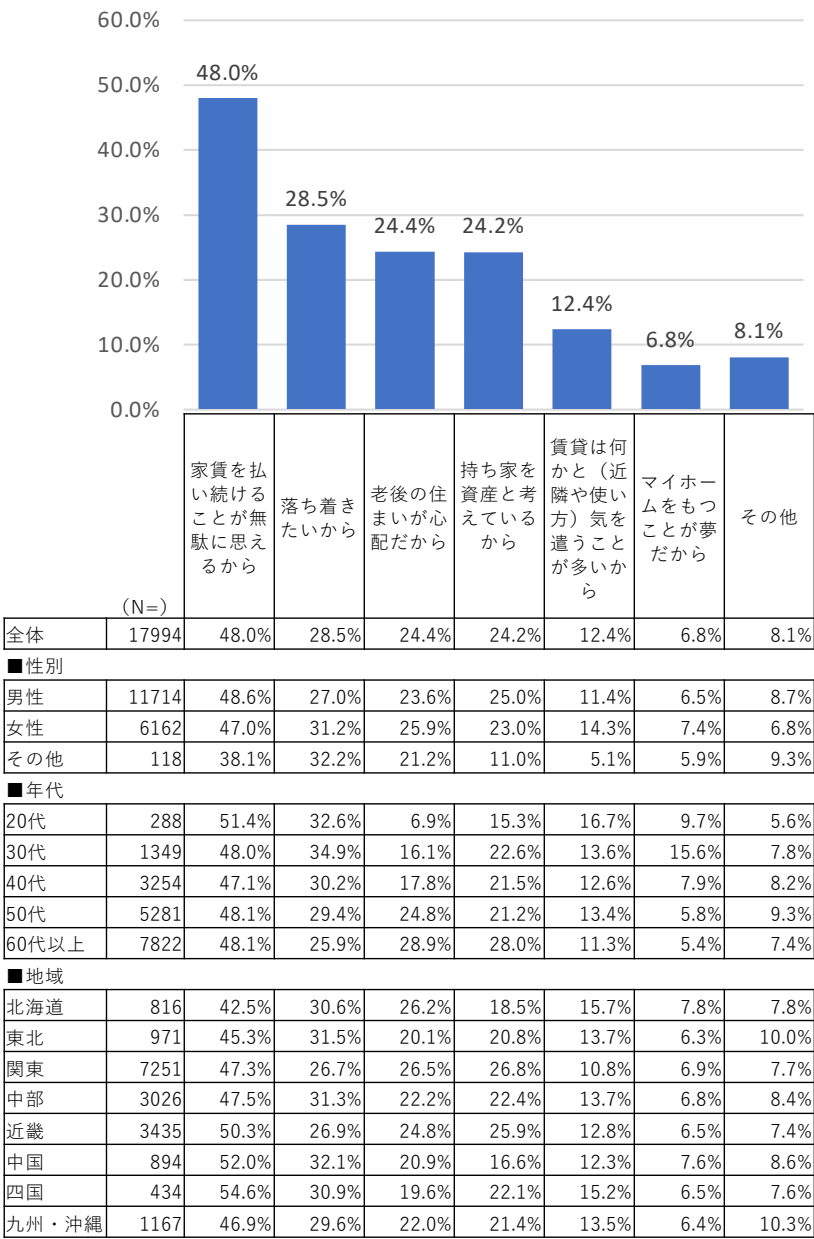
	持ち家派								賃貸派							
	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
全体	83.7%	85.3%	84.9%	80.5%	80.9%	74.5%	79.6%	77.9%	16.2%	14.7%	15.1%	19.5%	19.1%	25.5%	20.4%	22.1%
■性別																
男性	84.5%	85.9%	85.2%	81.6%	82.0%	72.9%	81.9%	79.8%	15.6%	14.1%	14.9%	18.4%	18.0%	27.1%	18.1%	20.2%
女性	82.8%	84.8%	84.7%	79.9%	80.1%	78.3%	76.6%	75.2%	17.2%	15.2%	15.4%	20.1%	19.9%	21.7%	23.4%	24.8%
その他	-	-	-	52.4%	59.2%	42.1%	55.5%	52.9%	-	-	-	47.6%	40.8%	57.9%	44.5%	47.1%
■年代																
20代	83.1%	85.9%	85.4%	79.8%	81.0%	53.3%	70.7%	67.9%	16.9%	14.0%	14.6%	20.2%	19.0%	46.7%	29.3%	32.1%
30代	82.4%	85.4%	85.0%	79.1%	81.7%	65.8%	75.8%	69.5%	17.5%	14.6%	15.0%	20.9%	18.3%	34.2%	24.2%	30.5%
40代	79.7%	82.5%	81.4%	76.8%	77.4%	69.4%	74.1%	72.3%	20.4%	17.5%	18.6%	23.2%	22.6%	30.6%	25.9%	27.7%
50代	84.1%	86.1%	85.3%	80.1%	78.8%	73.9%	78.4%	76.1%	16.0%	13.9%	14.6%	19.9%	21.2%	26.1%	21.6%	23.9%
60代以上	89.7%	89.3%	90.1%	85.9%	85.6%	87.1%	86.0%	84.3%	10.2%	10.7%	10.0%	14.1%	14.4%	12.9%	14.0%	15.7%
■地域																
北海道	79.0%	80.9%	77.9%	74.1%	75.4%	73.4%	73.2%	71.6%	21.0%	19.1%	22.0%	25.9%	24.6%	26.6%	26.8%	28.4%
東北	87.7%	87.9%	87.5%	82.0%	82.9%	79.2%	80.1%	79.5%	12.3%	12.1%	12.6%	18.0%	17.1%	20.7%	19.9%	20.5%
関東	82.3%	85.5%	84.8%	78.8%	79.7%	66.2%	78.4%	77.4%	17.8%	14.5%	15.2%	21.2%	20.3%	33.8%	21.6%	22.6%
中部	86.9%	87.8%	87.6%	84.3%	84.0%	84.6%	84.0%	82.5%	13.1%	12.2%	12.4%	15.7%	16.0%	15.5%	16.0%	17.5%
近畿	85.3%	83.5%	85.3%	81.8%	80.8%	79.9%	80.2%	78.3%	14.7%	16.5%	14.7%	18.2%	19.2%	20.2%	19.8%	21.7%
中国	82.3%	86.2%	87.4%	83.4%	83.3%	83.0%	81.0%	79.3%	17.6%	13.7%	12.6%	16.6%	16.7%	17.0%	19.0%	20.7%
四国	85.2%	85.1%	82.2%	84.4%	82.0%	84.7%	83.8%	76.5%	14.8%	14.9%	17.8%	15.6%	18.0%	15.3%	16.2%	23.5%
九州・沖縄	81.5%	82.6%	80.6%	76.2%	79.4%	77.8%	75.8%	72.4%	18.5%	17.3%	19.4%	23.8%	20.6%	22.3%	24.2%	27.6%

Q 2 - A. 「持ち家派」（一戸建て/マンション・集合住宅含む）の理由を教えてください。
（3つまで選択可）（持ち家派の人のみ）

- 「家賃を払い続けることが無駄に思えるから」 48.0% （-2.9pt）
- 「落ち着きたいから」 28.5% （-3.1pt） / 「老後の住まいが心配だから」 24.4% （-2.5pt）

- ◆ 「家賃を払い続けることが無駄に思えるから」 が48.0%と最も多く挙げられ、半数近くとなった。
- ◆ 20ptほど差が開き「落ち着きたいから」が28.5%、「老後の住まいが心配だから」が24.4%と続く。
- ◆ 2014年度以降、上位3つ以内に入っていた「持ち家を資産と考えているから」は僅差で4位となった。
- ◆ 「持ち家を資産と考えているから」は、年代が上がるほど割合が高い傾向が見られた。

<2022年度 持ち家派 理由>



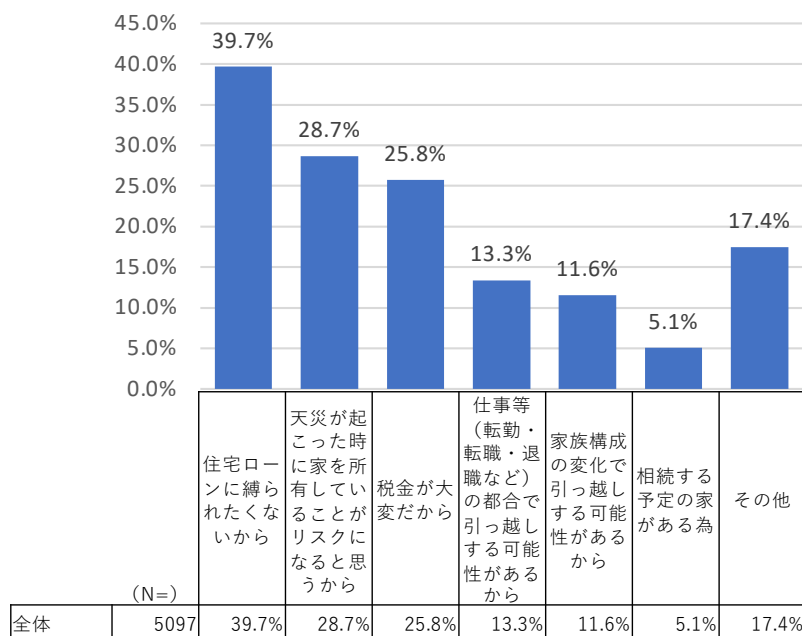
- 【2022年度 TOP3】
1 家賃を払い続けることが無駄に思えるから(48.0%)
2 落ち着きたいから(28.5%)
3 老後の住まいが心配だから(24.4%)
- 【2021年度 TOP3】
1 家賃を払い続けることが無駄に思えるから(50.9%)
2 落ち着きたいから(31.6%)
3 持ち家を資産と考えているから(28.8%)
- 【2020年度 TOP3】
1 家賃を払い続けることが無駄に思えるから (50.2%)
2 落ち着きたいから (31.7%)
3 持ち家を資産と考えているから (28.0%)
- 【2019年度 TOP3】
1 家賃を払い続けることが無駄に思えるから (53.5%)
2 持ち家を資産と考えているから (32.1%)
3 落ち着きたいから (28.5%)
- 【2018年度 TOP3】
1 家賃を払い続けることが無駄に思えるから (52.9%)
2 落ち着きたいから (32.1%)
3 持ち家を資産と考えているから (30.9%)
- 【2017年度 TOP3】
1 家賃を払い続けることが無駄に思えるから(63.1%)
2 落ち着きたいから(43.9%)
3 持ち家を資産と考えているから(39.4%)

Q2-B. 「賃貸派」(一戸建て/マンション・集合住宅含む)の理由を教えてください。
(3つまで選択可) (賃貸派の人のみ)

- 最多は「住宅ローンに縛られたくないから」39.7% (-1.9pt)
- 「天災が起こった時に家を所有していることがリスクになると思うから」が28.7% (-3.5pt)
- 「税金が大変だから」は25.8% (+1.4pt)

- ◆ 税金よりも住宅ローンや天災など将来のリスクについての意識が高いことが読みとれる。
- ◆ 若い年代ほど仕事や家族構成の変化による引っ越しを懸念していることが顕著に表れた。
- ◆ 地域別では、近畿が「天災が起こった時に家を所有していることがリスクになると思うから」が34.2%で最多。最少の中国とは10.6ptの差。

<2022年度 賃貸派 理由>



■ 性別

性別	人数	住宅ローンに縛られたくないから	天災が起こった時に家を所有していることがリスクになると思うから	税金が大変だから	仕事等(転勤・退職など)の都合で引っ越しする可能性があるから	家族構成の変化で引っ越しする可能性があるから	相続する予定の家があるから	その他
男性	2962	39.9%	28.4%	25.0%	12.8%	10.4%	5.2%	18.5%
女性	2030	40.5%	28.2%	27.0%	14.5%	13.4%	4.8%	16.0%
その他	105	16.2%	44.8%	22.9%	5.7%	9.5%	7.6%	15.2%

■ 年代

年代	人数	住宅ローンに縛られたくないから	天災が起こった時に家を所有していることがリスクになると思うから	税金が大変だから	仕事等(転勤・退職など)の都合で引っ越しする可能性があるから	家族構成の変化で引っ越しする可能性があるから	相続する予定の家があるから	その他
20代	136	22.1%	19.1%	19.1%	23.5%	23.5%	4.4%	16.2%
30代	591	41.5%	22.8%	27.1%	17.3%	19.6%	3.9%	10.2%
40代	1248	38.1%	26.3%	26.4%	17.6%	13.5%	5.9%	15.5%
50代	1662	40.5%	29.4%	25.9%	12.5%	8.4%	4.9%	19.3%
60代以上	1460	41.0%	33.2%	25.1%	8.2%	9.2%	5.2%	20.1%

■ 地域

地域	人数	住宅ローンに縛られたくないから	天災が起こった時に家を所有していることがリスクになると思うから	税金が大変だから	仕事等(転勤・退職など)の都合で引っ越しする可能性があるから	家族構成の変化で引っ越しする可能性があるから	相続する予定の家があるから	その他
北海道	323	41.5%	26.9%	25.7%	11.1%	9.6%	5.3%	18.9%
東北	251	30.7%	26.7%	27.5%	16.3%	15.9%	4.8%	13.9%
関東	2117	41.0%	26.7%	24.9%	14.6%	10.8%	5.0%	18.7%
中部	642	41.9%	29.8%	25.7%	11.2%	13.9%	4.7%	17.6%
近畿	953	37.9%	34.2%	24.3%	12.8%	13.0%	5.6%	14.8%
中国	233	38.2%	23.6%	26.6%	9.9%	10.3%	5.2%	15.0%
四国	133	30.8%	33.8%	29.3%	15.0%	12.0%	7.5%	21.1%
九州・沖縄	445	41.6%	28.1%	30.3%	12.8%	8.5%	4.5%	18.0%

【2022年度 TOP3】

- 1 住宅ローンに縛られたくないから(39.7%)
- 2 天災が起こった時に家の所有がリスクになると思うから(28.7%)
- 3 税金が大変だから(25.8%)

【2021年度 TOP3】

- 1 住宅ローンに縛られたくないから(41.6%)
- 2 天災が起こった時に家の所有がリスクになると思うから(32.2%)
- 3 税金が大変だから(24.4%)

【2020年度 TOP3】

- 1 税金が大変だから(37.1%)
- 2 住宅ローンに縛られたくないから(36.6%)
- 3 天災が起こった時に家の所有がリスクになると思うから(30.2%)

【2019年度 TOP3】

- 1 住宅ローンに縛られたくないから(41.5%)
- 2 天災が起こった時に家の所有がリスクになると思うから(35.6%)
- 3 税金が大変だから(24.5%)

【2018年度 TOP3】

- 1 住宅ローンに縛られたくないから(41.8%)
- 2 天災が起こった時に家の所有がリスクになると思うから(35.8%)
- 3 税金が大変だから(26.1%)

【2017年度 TOP3】

- 1 住宅ローンに縛られたくないから(59.0%)
- 2 仕事等の都合で引っ越しする可能性があるから(37.5%)
- 3 家族構成の変化で引っ越しする可能性があるから(31.6%)

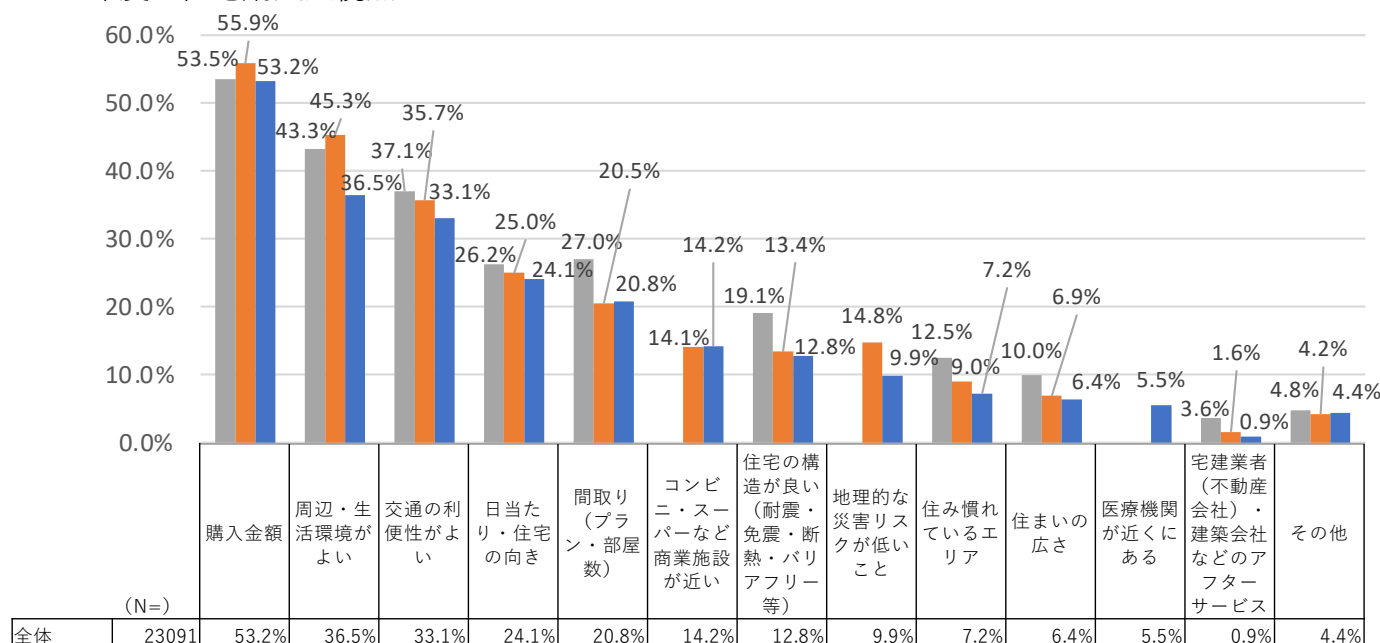
Q 3. 住宅を購入するときのポイントは何か？（3つまで選択可）

- 現実的な予算「購入金額」53.2%（-2.7pt）
- 生活環境の重視「周辺・生活環境がよい」36.5%（-8.8pt）
- 「交通の利便性がよい」33.1%（-2.6pt）

- ◆ 「購入金額」が53.2%と最も多く挙げられ、次いで「周辺・生活環境がよい」が36.5%、「交通の利便性がよい」が33.1%と経済的負担と生活環境を重視していることが見受けられる。
- ◆ 「購入金額」は性別・年代・地域別全てにおいて1位になっている。
- ◆ 2022年度より選択肢に加わった「医療機関が近くにある」は、新型コロナウイルスの影響もあり、低い割合ではあるが、重視するポイントとして挙げられることが分かった。

<2022年度 住宅購入重視点>

■ 2020 ■ 2021 ■ 2022



■ 性別

	(N=)	購入金額	周辺・生活環境がよい	交通の利便性がよい	日当たり・住宅の向き	間取り（プラン・部屋数）	コンビニ・スーパーなど商業施設が近い	住宅の構造が良い（耐震・免震・断熱・バリアフリー等）	地理的な災害リスクが低いこと	住み慣れているエリア	住まいの広さ	医療機関が近くにある	宅建業者（不動産会社）・建築会社などのアフターサービス	その他
全体	23091	53.2%	36.5%	33.1%	24.1%	20.8%	14.2%	12.8%	9.9%	7.2%	6.4%	5.5%	0.9%	4.4%
男性	14676	55.0%	35.9%	31.3%	22.8%	19.5%	13.3%	12.6%	9.1%	7.0%	6.8%	5.8%	0.9%	4.8%
女性	8192	50.9%	38.1%	36.7%	26.6%	23.3%	16.1%	13.1%	11.2%	7.8%	5.7%	4.8%	0.9%	3.5%
その他	223	25.1%	16.1%	15.2%	14.8%	17.9%	6.3%	8.5%	12.1%	4.0%	6.3%	13.9%	0.0%	9.0%

■ 年代

	(N=)	購入金額	周辺・生活環境がよい	交通の利便性がよい	日当たり・住宅の向き	間取り（プラン・部屋数）	コンビニ・スーパーなど商業施設が近い	住宅の構造が良い（耐震・免震・断熱・バリアフリー等）	地理的な災害リスクが低いこと	住み慣れているエリア	住まいの広さ	医療機関が近くにある	宅建業者（不動産会社）・建築会社などのアフターサービス	その他
20代	424	44.3%	31.1%	30.7%	8.0%	16.0%	14.2%	14.6%	8.0%	3.3%	5.7%	5.2%	0.9%	5.7%
30代	1940	51.8%	39.0%	33.2%	14.8%	21.4%	15.7%	10.4%	9.6%	6.3%	6.1%	4.4%	1.2%	3.1%
40代	4502	52.8%	37.2%	31.0%	19.8%	21.8%	13.9%	9.4%	8.2%	7.1%	6.3%	4.2%	0.9%	4.8%
50代	6943	54.4%	33.7%	32.2%	25.0%	22.5%	14.2%	10.3%	9.2%	7.3%	6.3%	4.7%	0.8%	5.0%
60代以上	9282	53.2%	37.9%	34.7%	28.1%	19.3%	14.0%	16.7%	11.4%	7.6%	6.5%	7.0%	1.0%	4.0%

■ 地域

	(N=)	購入金額	周辺・生活環境がよい	交通の利便性がよい	日当たり・住宅の向き	間取り（プラン・部屋数）	コンビニ・スーパーなど商業施設が近い	住宅の構造が良い（耐震・免震・断熱・バリアフリー等）	地理的な災害リスクが低いこと	住み慣れているエリア	住まいの広さ	医療機関が近くにある	宅建業者（不動産会社）・建築会社などのアフターサービス	その他
北海道	1139	50.4%	29.4%	31.9%	23.4%	24.5%	15.7%	11.4%	8.2%	6.8%	8.0%	6.2%	1.6%	4.4%
東北	1222	52.7%	36.7%	24.9%	19.7%	21.0%	16.9%	13.3%	11.0%	8.6%	5.4%	4.3%	0.5%	4.6%
関東	9368	54.5%	34.4%	36.1%	25.8%	20.0%	13.8%	12.5%	10.6%	6.7%	6.1%	5.2%	0.8%	4.5%
中部	3668	52.0%	38.4%	28.4%	25.5%	20.8%	12.8%	14.3%	9.8%	8.8%	6.8%	5.0%	0.8%	4.3%
近畿	4388	51.9%	37.8%	37.1%	21.2%	22.0%	15.5%	12.8%	8.6%	6.7%	6.8%	6.2%	0.8%	4.1%
中国	1127	52.6%	41.3%	25.3%	25.4%	19.3%	11.9%	11.2%	7.9%	8.0%	5.2%	6.2%	1.6%	4.2%
四国	567	55.0%	43.4%	23.3%	23.3%	22.2%	13.6%	14.6%	9.7%	7.8%	6.2%	5.1%	2.1%	3.7%
九州・沖縄	1612	54.2%	39.6%	30.7%	21.7%	20.2%	14.8%	11.8%	11.1%	7.1%	6.1%	6.8%	1.3%	5.1%

Q 4. 住宅を借りるときのポイントは何ですか？（3つまで選択可）

■ 2021年度と同様で最多は「家賃」64.3%（-6.0pt）

■ 生活環境の重視「交通の利便性がよい」39.6%（-5.6pt）／「周辺・生活環境がよい」29.9%（-5.6pt）

- ◆ 2020、2021年度に引き続き「家賃」が64.3%と最も多い結果に。
- ◆ 「交通の利便性がよい」が39.6%、「周辺・生活環境がよい」が29.9%と続き、間取りや日当たりなど物件性能よりも、住環境が重視されていることが見てとれる。
- ◆ 年代別に見ると、60代以上は日当たりを重視していることが分かる。
- ◆ 「周辺・生活環境がよい」は地域別の中で、四国と九州・沖縄が高いことが分かる。

<2022年度 賃貸住宅重視点>



Q 5. 賃貸物件を借りる際、不安に感じることは何ですか？（3つまで選択可）

■「家賃を払い続けることができるか」が31.6%（-1.0pt）と最多。

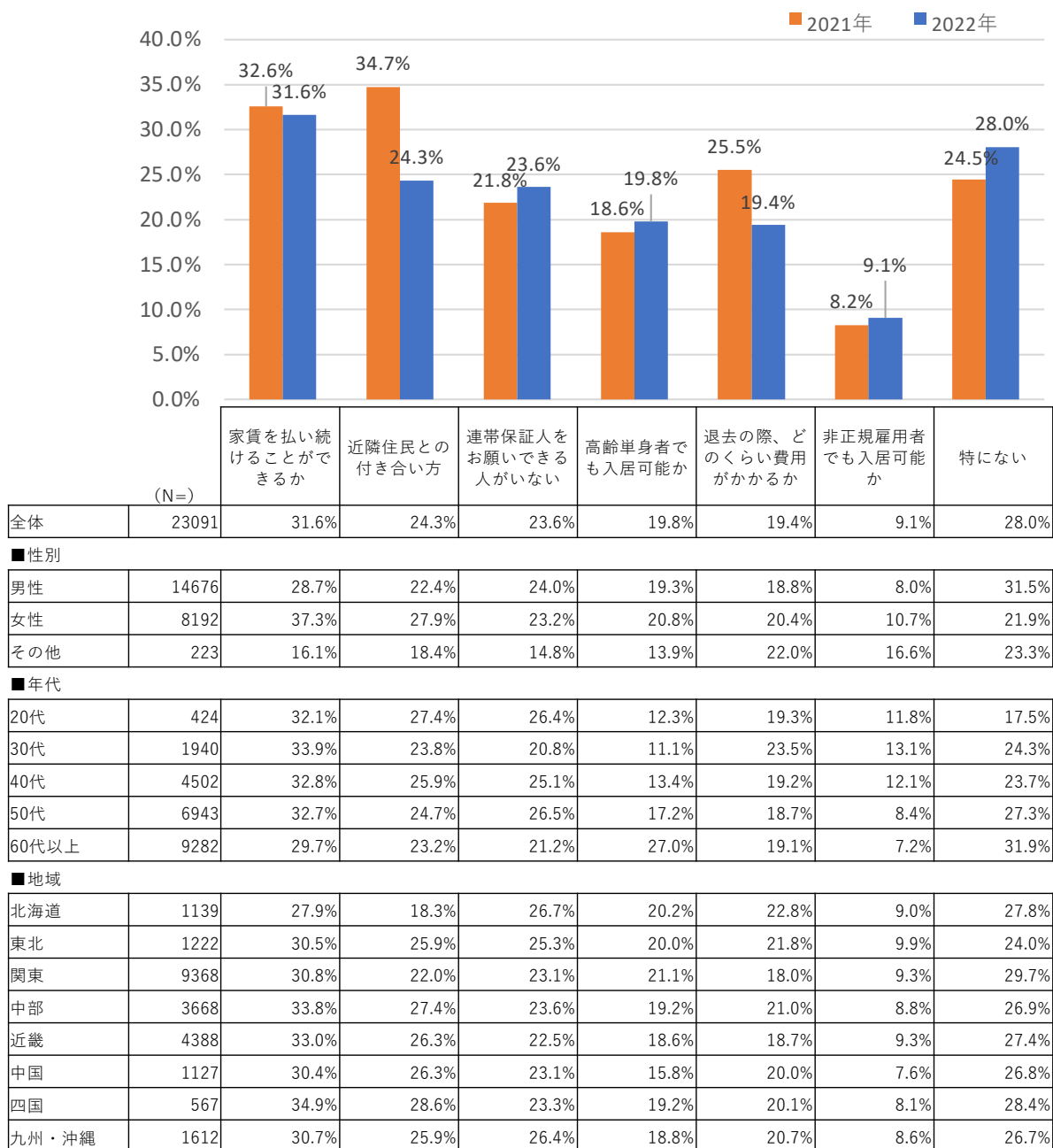
■「近隣住民との付き合い方」が24.3%（-10.4pt）。

◆「近隣住民との付き合い方」に不安を感じるのは性別では女性、年代では若い年代ほど比較的割合が高い傾向。地域別では四国が28.6%で最多。最少は北海道で18.3%。2021年度と比較すると低下している一方で、「家賃を払い続けることができるか」への関心が高まっていることが伺える。

◆女性の方が総じて不安を感じる傾向が強い一方で、男性が上回ったのは「連帯保証人をお願いできる人がいない」が0.8pt差で24.0%。

◆「退去の際、どのくらい費用がかかるか」では30代が特に不安を感じていることが読みとれる。

<2022年度 賃貸物件を借りる際の不安なこと>



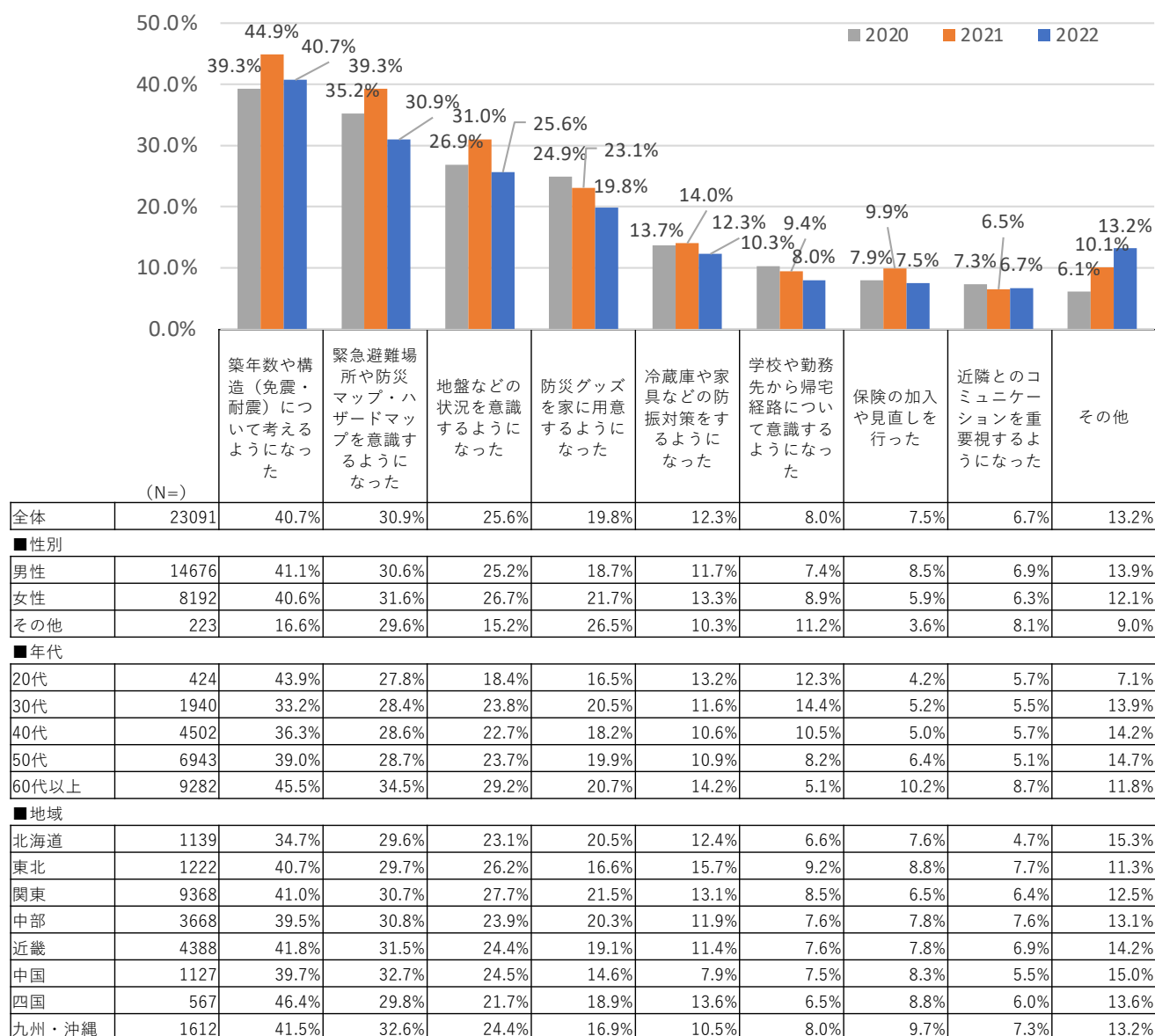
Q 6. 天災に対する住まいの意識について当てはまるものを選択してください。

(3つまで選択可)

- 「築年数や構造（免震・耐震）について考えるようになった」 40.7% (-4.2pt)
- 「緊急避難場所や防災マップ・ハザードマップを意識するようになった」 30.9% (-8.4pt)
- 「地盤などの状況を意識するようになった」 25.6% (-5.4pt)

- ◆「緊急避難場所や防災マップ・ハザードマップを意識するようになった」は60代以上では34.5%と、他世代と比較して高い割合となった。
- ◆「防災グッズを家に用意するようになった」は3年連続で減少し、地域別で見ると最も高い北海道が20.5%に対して、中国は14.6%と5.9ptの差が見られた。
- ◆「保険の加入や見直しを行った」と「近隣とのコミュニケーションを重要視するようになった」は、性別では男性、年代別では60代以上の意識が高いことが見てとれる。
- ◆ 築年数や構造、緊急避難場所や防災マップ・ハザードマップ、地盤についての意識は2021年度が極めて高いのは、集中豪雨により発生した土石流災害などの影響があると推察される。

<2022年度 天災に関する住まいの意識>



Q 7. 住まい選びの際、天災への対策として重要視するポイントは何ですか？

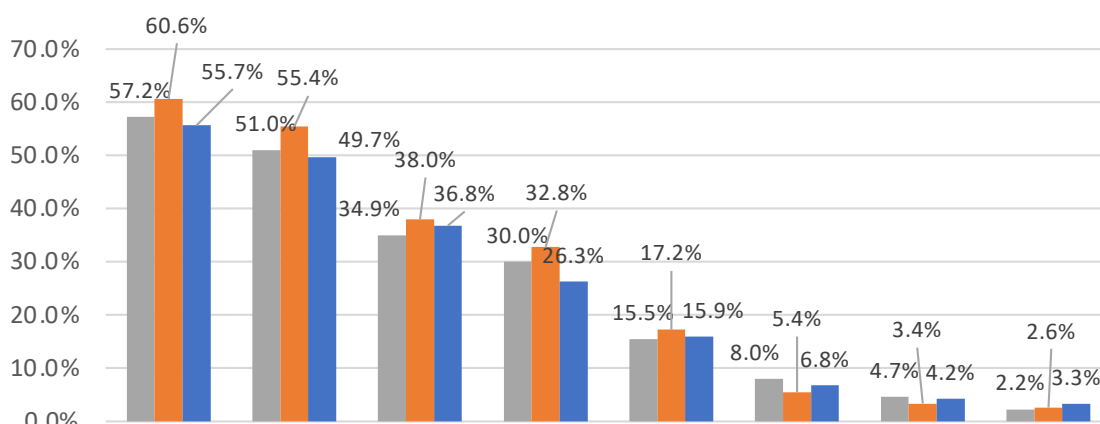
(3つまで選択可)

- 最多は「構造（免震・耐震性）」55.7% (-4.9pt)
- 「立地（地盤の強度）」49.7% (-5.7pt) / 「築年数」36.8% (-1.2pt)
- 全体的に、2021年度より天災への意識が低くなっている傾向

- ◆ 「構造（免震・耐震性）」「立地（地盤の強度）」は年代が上がるほど割合が高くなり、「築年数」は若い世代の割合が高くなった。
- ◆ 性別では全体的に女性が高く、「太陽光発電・蓄電池システム」の住宅設備においては、男性の割合が高くなった。

<2022度 住まい選びで天災への対策として重要視するポイント>

■ 2020 ■ 2021 ■ 2022



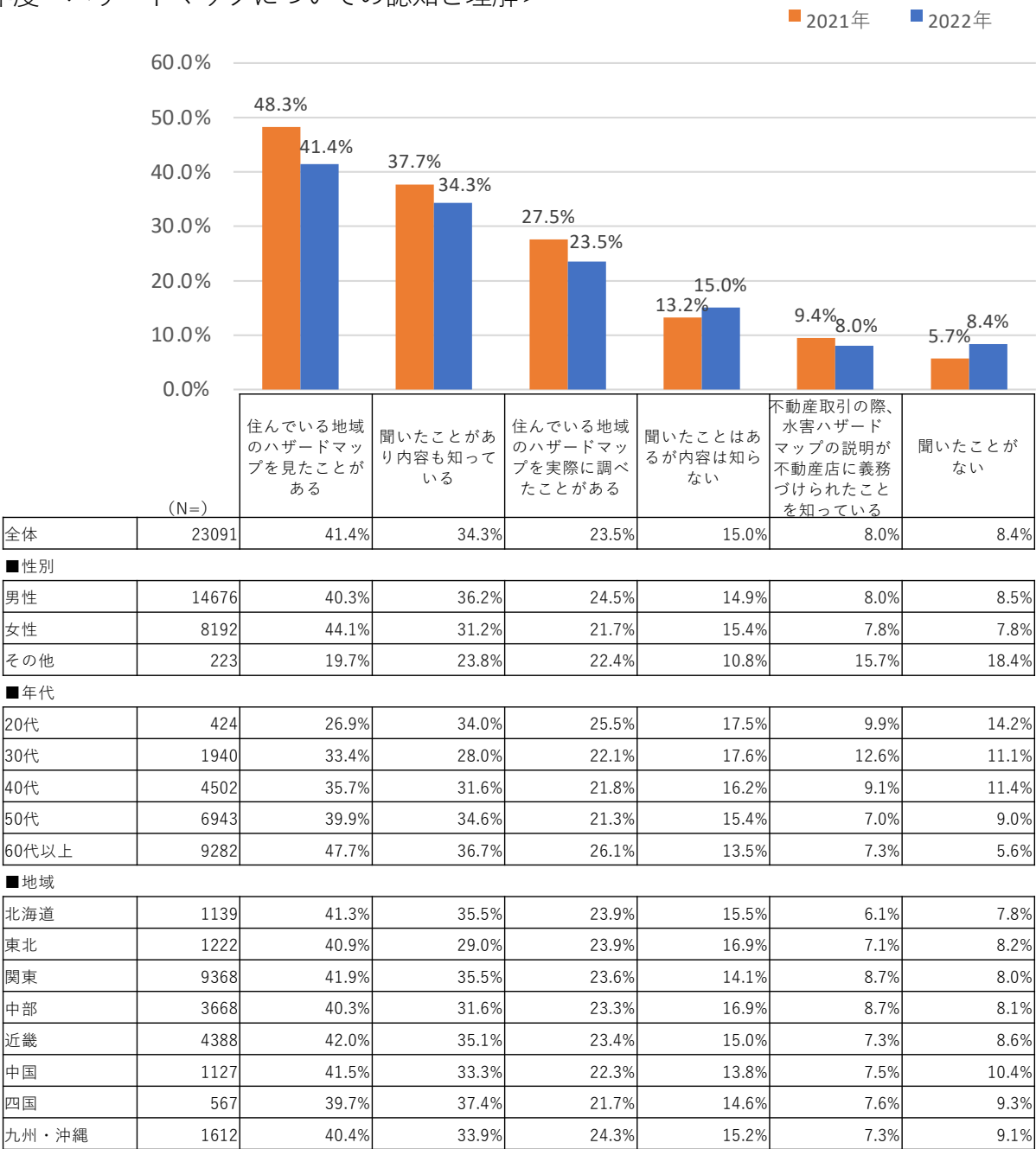
(N=)		構造（免震・耐震性）	立地（地盤の強度）	築年数	立地（市町村が公表しているハザードマップ）	周辺施設（広域避難所等）	太陽光発電・蓄電池システム	雨水タンク	その他
全体	23091	55.7%	49.7%	36.8%	26.3%	15.9%	6.8%	4.2%	3.3%
■ 性別									
男性	14676	55.2%	48.4%	36.5%	25.7%	15.9%	6.8%	4.1%	3.5%
女性	8192	57.3%	52.7%	38.1%	27.4%	16.0%	6.7%	4.1%	2.8%
その他	223	26.0%	30.5%	15.2%	19.7%	12.6%	9.9%	18.8%	5.8%
■ 年代									
20代	424	34.9%	34.9%	47.6%	19.3%	11.3%	7.5%	9.4%	2.8%
30代	1940	47.4%	41.2%	38.5%	26.7%	13.7%	8.6%	6.0%	4.1%
40代	4502	47.5%	47.0%	37.6%	24.6%	12.5%	7.4%	5.3%	3.9%
50代	6943	53.2%	47.6%	36.9%	25.6%	14.7%	6.3%	4.6%	3.5%
60代以上	9282	64.1%	55.1%	35.6%	27.8%	19.1%	6.4%	2.9%	2.7%
■ 地域									
北海道	1139	47.6%	47.2%	35.5%	24.1%	18.2%	6.3%	5.0%	3.8%
東北	1222	53.5%	48.9%	37.1%	26.8%	13.1%	7.4%	4.6%	3.2%
関東	9368	56.8%	51.3%	36.3%	27.1%	15.8%	6.3%	4.2%	3.1%
中部	3668	55.0%	48.7%	35.7%	26.8%	15.1%	7.8%	4.3%	3.1%
近畿	4388	58.4%	49.3%	37.5%	24.8%	16.3%	6.7%	3.7%	3.7%
中国	1127	48.4%	45.2%	38.9%	26.7%	15.1%	7.5%	4.9%	3.8%
四国	567	54.1%	46.7%	40.2%	25.4%	18.3%	10.2%	4.4%	1.6%
九州・沖縄	1612	56.1%	50.5%	39.0%	25.3%	17.4%	6.0%	4.6%	3.8%

Q 8. ハザードマップについてどの程度知ってますか？（3つまで選択可）

- トップは「住んでいる地域のハザードマップを見たことがある」41.4%（-6.9pt）
- 「不動産取引の際、水害ハザードマップの説明が不動産店に義務づけられたことを知っている」と答えたのはわずか8.0%（-1.4pt）

- ◆ 全体的に男性の方が認知・関心がある割合が高い。
「住んでいる地域のハザードマップを見たことがある」では女性が男性を3.8pt上回った。
- ◆ 「聞いたことがあり内容も知っている」と回答した年代は、60代以上が最も多く36.7%。
- ◆ 地域別で見ると「聞いたことがあり内容も知っている」は四国が37.4%で最多となった。
- ◆ 2021年度と比較すると、ハザードマップへの認知・理解度は微減していることが伺える。

<2022年度 ハザードマップについての認知と理解>

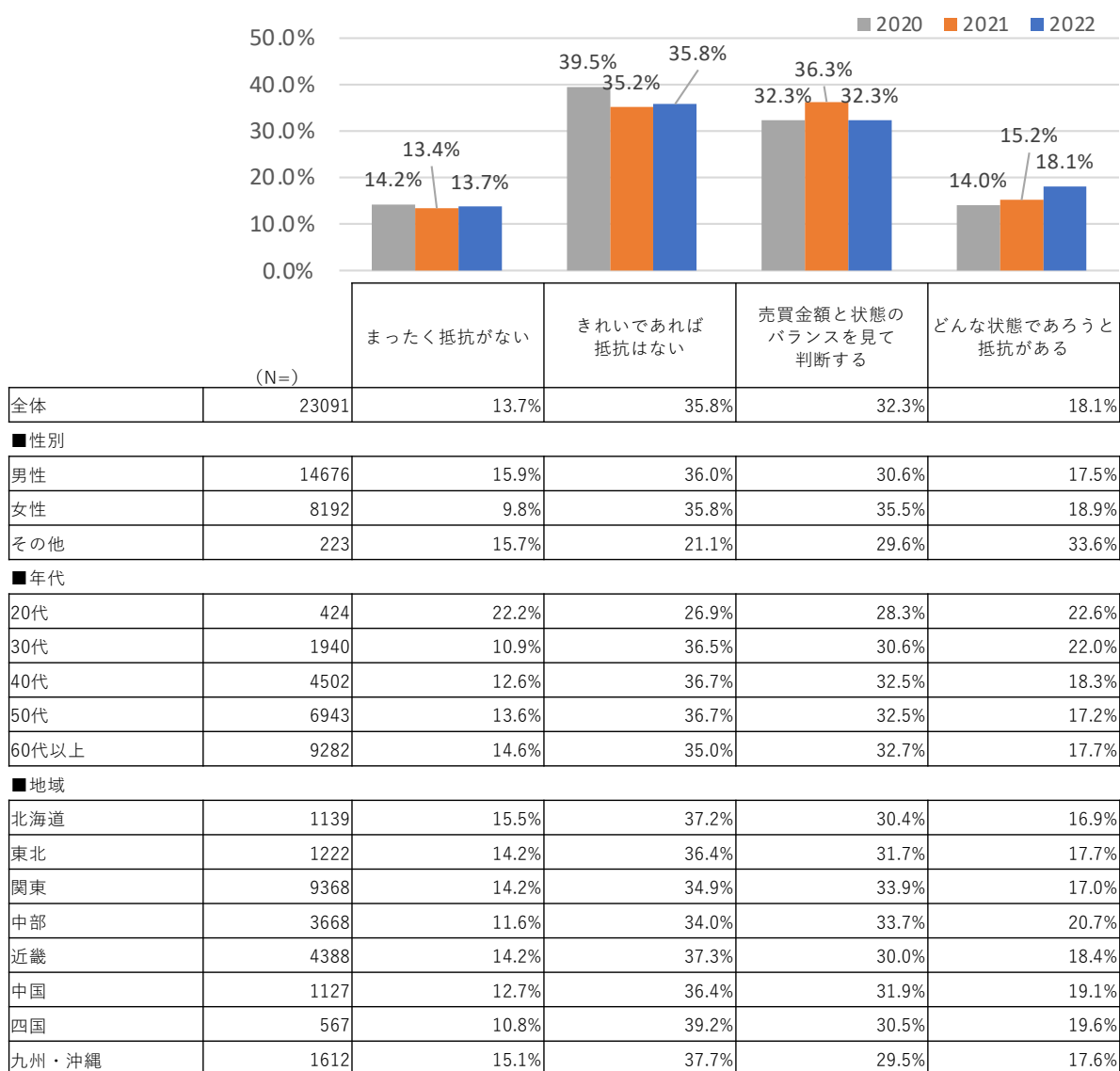


Q 9. 既存住宅（中古住宅）に抵抗はありますか？（1つ選択）

- トップは「売買金額と状態のバランスを見て判断する」 32.3%（-4.0pt）
- 「きれいであれば抵抗はない」 35.8%（+0.6pt）
- 「まったく抵抗がない」「きれいであれば抵抗はない」とともに2021年度から微増し、「どんな状態であろうと抵抗がある」も2.9pt増加した。
既存住宅への抵抗は二極化の傾向か。

- ◆ 「まったく抵抗がない」が13.7%、「きれいであれば抵抗はない」が35.8%、あわせて49.5%（+0.9pt）と半数近くが抵抗感が薄い結果となった。
- ◆ 「まったく抵抗がない」は20代では22.2%と、他年代よりも高い割合。
また、男性は女性よりも6.1pt上回る結果となった。
- ◆ 「どんな状態であろうと抵抗がある」は3年連続で微増しており、既存住宅への抵抗感は一極化しつつあることが見てとれる。

<2022年度 既存住宅（中古住宅）に関する抵抗感>

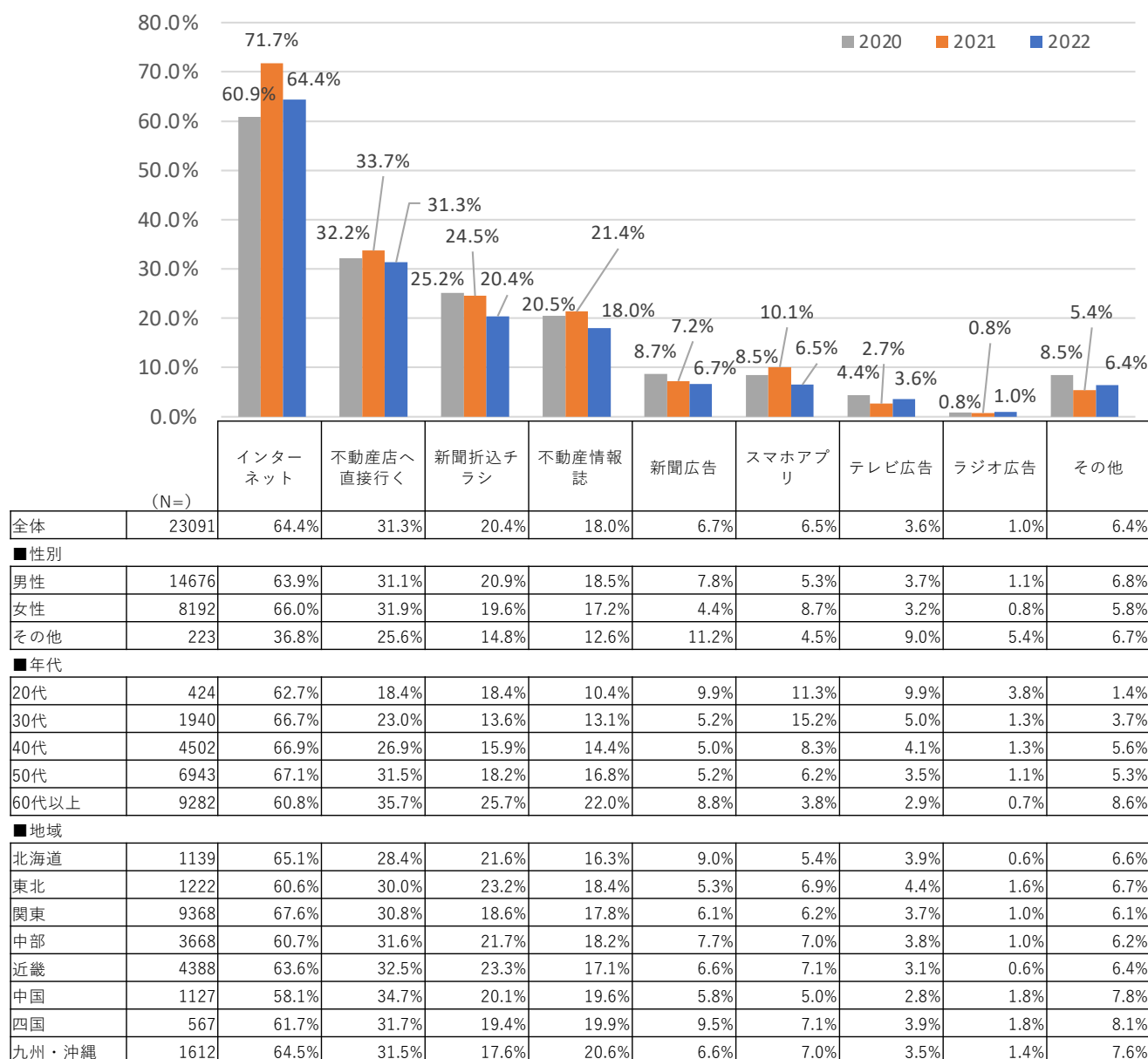


Q 10. 物件情報はどこから入手しますか？（3つまで選択可）

- トップは2位と倍以上の差で「インターネット」64.4%（-7.3pt）
- 「不動産店へ直接行く」31.3%（-2.4pt）／「新聞折込チラシ」20.4%（-4.1pt）

- ◆ 「インターネット」は性別、年代、地域ともにトップ。完全に定着しているといえる。
- ◆ 「スマホアプリ」は60代以上の3.8%に対し、20代～30代では10%台と、若い世代での利用率が高い。
- ◆ 高い年代ほど「新聞折込チラシ」、「不動産情報誌」などの紙媒体からの情報取得が根強く、「不動産店へ直接行く」割合も高い。
- ◆ 九州・沖縄の「新聞折込チラシ」の割合は17.6%で地域別でみると最も低い。

<2022年度 物件情報入手経路>



Q 1 1. 物件情報の入手の際、基本情報以外に「あると便利」な情報は何ですか？

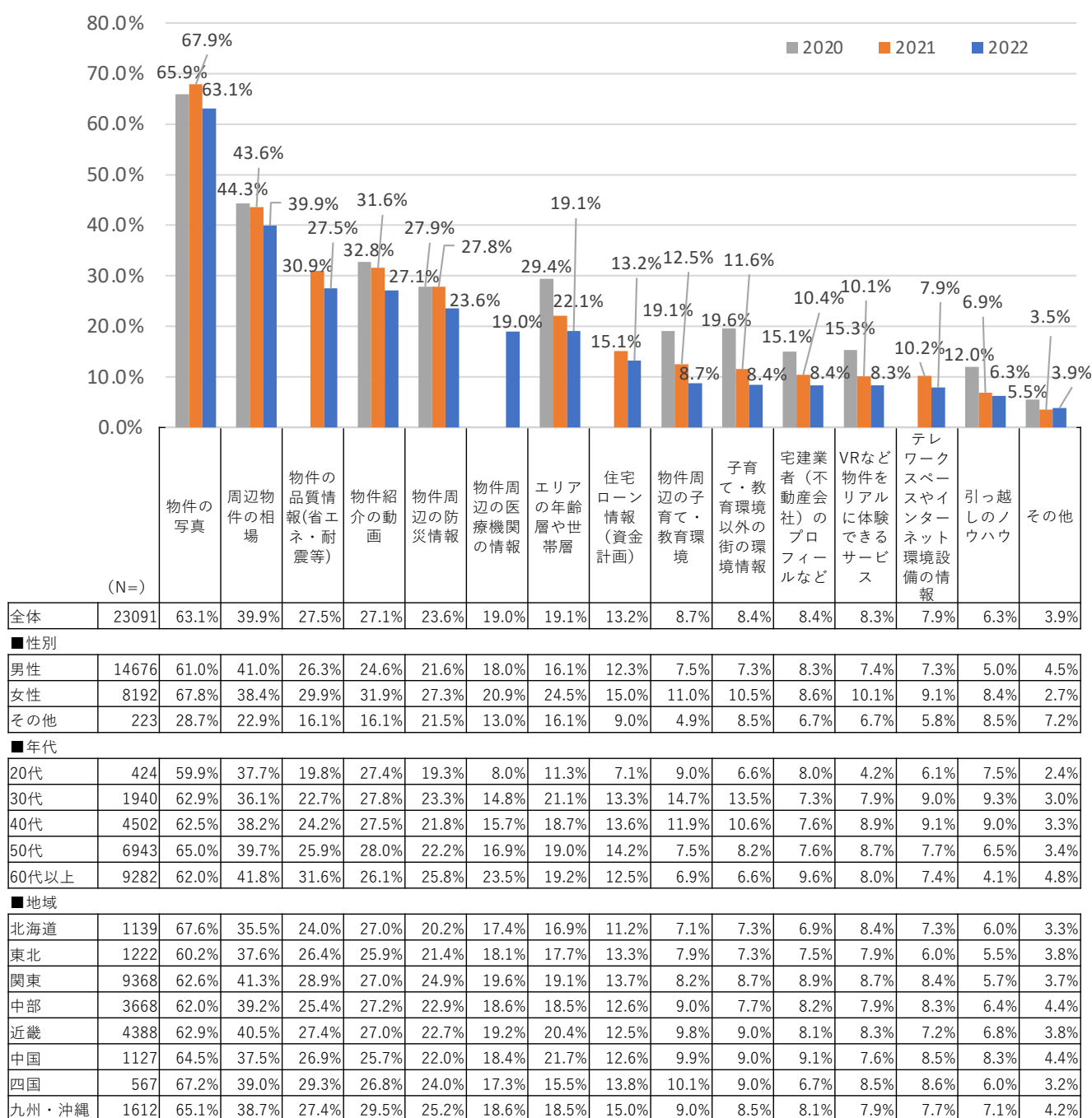
(複数選択可)

■「物件の写真」が20pt以上差をつけて63.1%でトップ（-4.8pt）

■次いで「周辺物件の相場」39.9%（-3.7pt）、
「物件の品質情報（省エネ・耐震等）」27.5%（-3.4pt）

- ◆「物件の写真」は性別、年代、地域ともにトップ。
- ◆「エリアの年齢層や世帯層」は男性16.1%に対して女性が24.5%と、8.4pt差で男女に大きな開き。
- ◆年代が高くなるにつれて「物件の品質情報（省エネ・耐震等）」「物件周辺の医療機関の情報」を求めるようになる傾向。

<2022年度 物件情報の入手の際、基本情報以外に「あると便利」な情報>



Q 1 2. あなたの住まいに対する考えに近いものを選択してください。（複数選択可）

■ 2021年度に引き続き「好きなときに転居しやすい住環境が良い」が29.1%で1位
(-1.5pt)

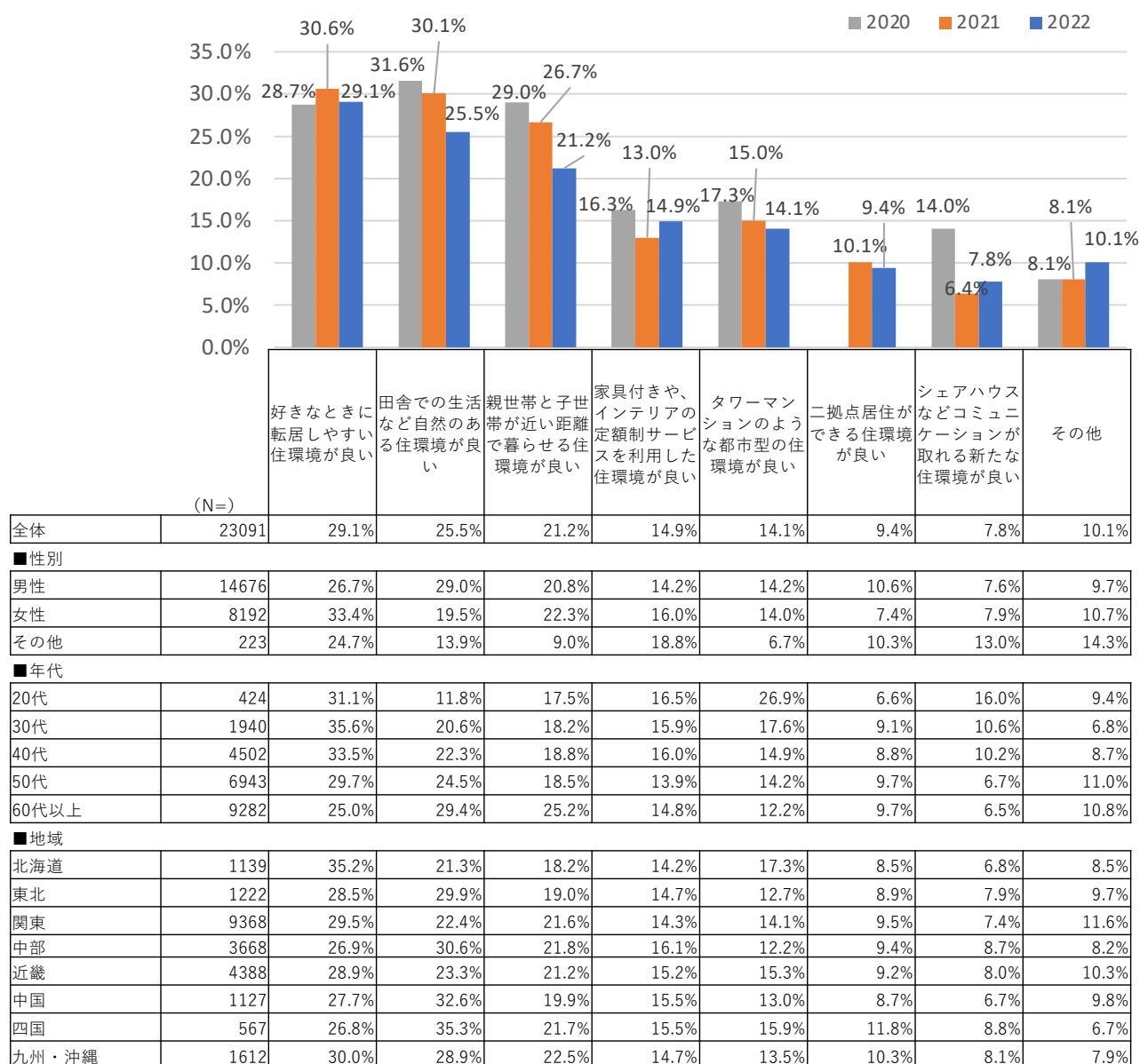
■ 「田舎での生活など自然のある住環境が良い」 25.5% (-4.6pt)

■ 「親世帯と子世帯が近い距離で暮らせる住環境が良い」 21.2% (-5.5pt)

◆ 「田舎での生活など自然のある住環境が良い」については、性別でみると女性の19.5%に比べ、男性が29.0%でトップ。また、年代別でみると60代以上が29.4%で3割近い水準。全体2位ではあるものの、減少傾向にある。

◆ 若い年代ほど「家具付きや、インテリアの定額制サービスを利用した住環境が良い」「タワーマンションのような都市型の住環境が良い」「シェアハウスなどコミュニケーションが取れる新たな住環境が良い」がそれぞれ高い傾向。

<2022年度 住まいに対する考え>



Q 1 3. 不動産取引において、2022年5月より売買・賃貸契約などの電子契約が解禁されたことを知っていますか？（1つ選択）

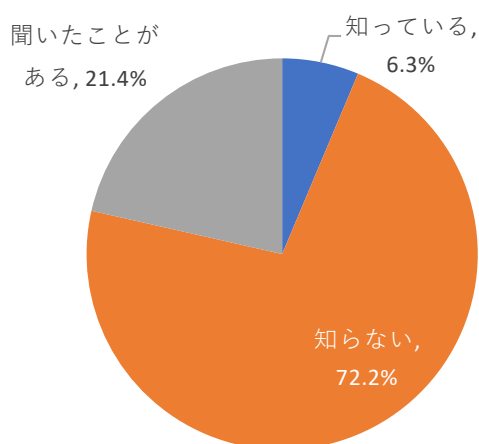
■「知らない」は72.2%で最多

■「知っている」6.3%／「聞いたことがある」21.4%

◆年代別では、20代は「知っている」が23.1%と、唯一2桁台となった。

◆地域別では、北海道が8.9%で最も「知っている」と回答し、四国は3.4%と最も低い結果となった。

<2022年5月より解禁した「売買・賃貸契約などの電子契約」の認知度>



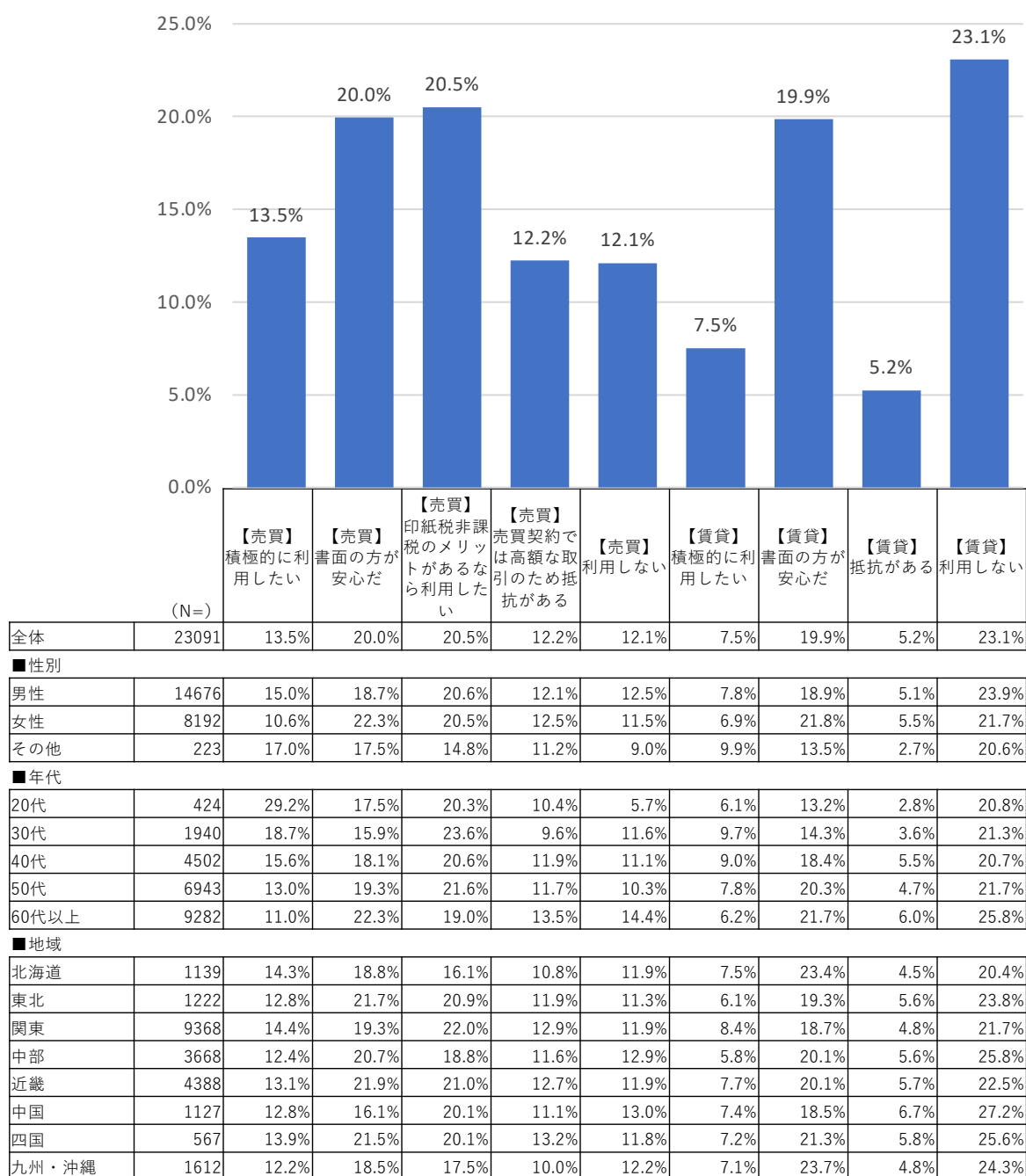
	(N=)	知っている	知らない	聞いたことがある
全体	23091	6.3%	72.2%	21.4%
■性別				
男性	14676	7.0%	70.2%	22.9%
女性	8192	5.0%	76.4%	18.6%
その他	223	13.9%	54.7%	31.4%
■年代				
20代	424	23.1%	56.1%	20.8%
30代	1940	6.6%	72.0%	21.4%
40代	4502	6.9%	70.4%	22.7%
50代	6943	6.1%	73.6%	20.3%
60代以上	9282	5.4%	72.8%	21.8%
■地域				
北海道	1139	8.9%	71.8%	19.3%
東北	1222	6.3%	72.9%	20.8%
関東	9368	7.3%	69.9%	22.8%
中部	3668	4.6%	75.4%	20.0%
近畿	4388	6.3%	71.8%	21.9%
中国	1127	5.3%	77.2%	17.5%
四国	567	3.4%	78.0%	18.7%
九州・沖縄	1612	4.5%	73.9%	21.5%

Q 1 3 - A. 不動産取引の電子契約について、売買・賃貸それぞれにあてはまるものを選んでください。（複数選択可）

- 売買では、「印紙税非課税のメリットがあるなら利用したい」が20.5%でトップ
僅差で、「書面の方が安心だ」20.0%
- 賃貸では、「利用しない」23.1%で最も高く、次点で「書面の方が安心だ」19.9%
- 「積極的に利用したい」は売買では13.5%、賃貸では7.5%

- ◆ 売買、賃貸問わず、「積極的に利用したい」のは男性の方が高く、「書面の方が安心だ」は女性の方が高い結果に。
- ◆ 年代別では、年代が高くなるほど、「書面の方が安心だ」の割合が高くなっている。

<2022年度 「不動産取引の電子契約」の意識>

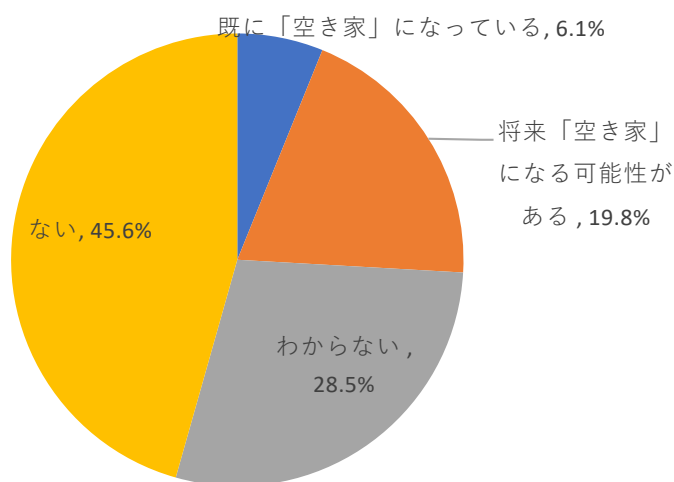


Q14. ご自身またはご家族（ご両親等）の家で、将来「空き家」になる、または、既に「空き家」になっている状況がありますか？（1つ選択）

- 空き家は「ない」が45.6%でトップ
- 「わからない」は28.5%
- 「将来『空き家』になる可能性がある」19.8%
／「既に『空き家』になっている」6.1%、あわせて25.9%

- ◆ 20代では「将来『空き家』になる可能性がある」が27.4%と3割近く、他年代と比較しても高い水準。
- ◆ 地域別では、「将来『空き家』になる可能性がある」は関東が17.5%と最も低く、四国が26.3%で最多。その差は8.8ptとなった。

<2022年度 自身または家族の空き家の状況>



	(N=)	既に「空き家」になっている	将来「空き家」になる可能性がある	わからない	ない
全体	23091	6.1%	19.8%	28.5%	45.6%
■ 性別					
男性	14676	6.5%	19.8%	27.7%	46.0%
女性	8192	5.4%	19.8%	29.6%	45.1%
その他	223	10.3%	12.6%	35.9%	41.3%
■ 年代					
20代	424	5.2%	27.4%	31.1%	36.3%
30代	1940	7.3%	19.3%	33.2%	40.3%
40代	4502	4.6%	19.5%	34.7%	41.3%
50代	6943	5.0%	20.4%	30.0%	44.6%
60代以上	9282	7.6%	19.1%	23.3%	50.0%
■ 地域					
北海道	1139	4.4%	23.1%	27.7%	44.9%
東北	1222	5.6%	24.7%	28.7%	40.9%
関東	9368	5.8%	17.5%	28.7%	47.9%
中部	3668	6.1%	21.2%	29.4%	43.3%
近畿	4388	7.2%	18.7%	27.9%	46.1%
中国	1127	7.1%	21.8%	28.9%	42.1%
四国	567	8.1%	26.3%	27.7%	37.9%
九州・沖縄	1612	5.3%	22.8%	26.9%	45.0%

Q14-A. 「空き家」について、現在どのような検討をしていますか？

(空き家になっている・可能性がある人のみ、複数選択可)

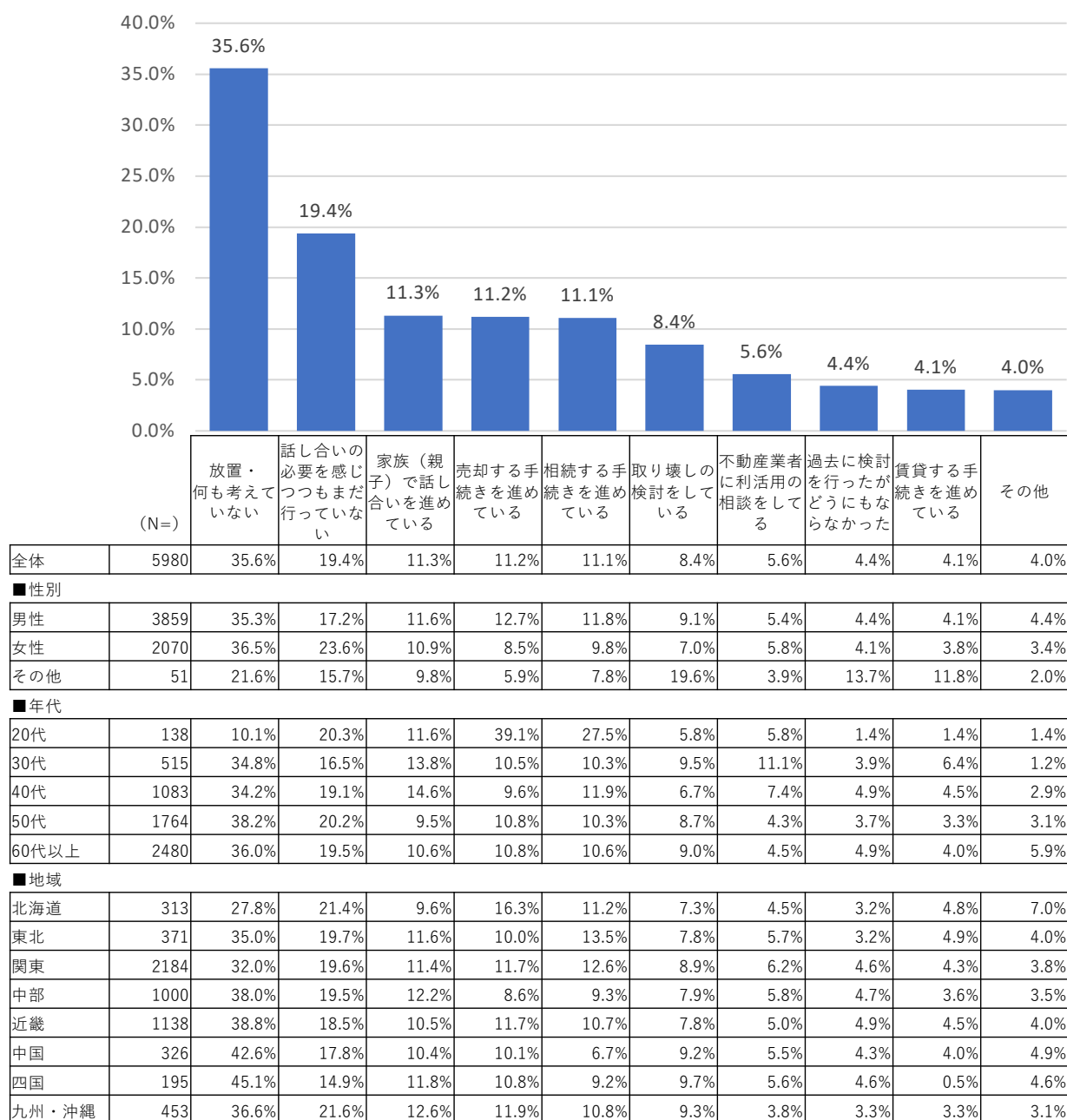
■「放置・何も考えていない」35.6%で最多

■次点で「話し合いの必要を感じつつもまだ行っていない」19.4%と、具体的な行動には移せていない方が過半数

◆「放置・何も考えていない」は20代では10.1%と他年代と比べて著しく低く、「売却する手続きを進めている」のは39.1%、「相続する手続きを進めている」のは27.5%と、空き家について具体的な検討を進めている傾向にあることが分かった。

◆地域別で見ると、四国では「放置・何も考えていない」が45.1%で、最多となった。

<2022年度 空き家についての検討状況>



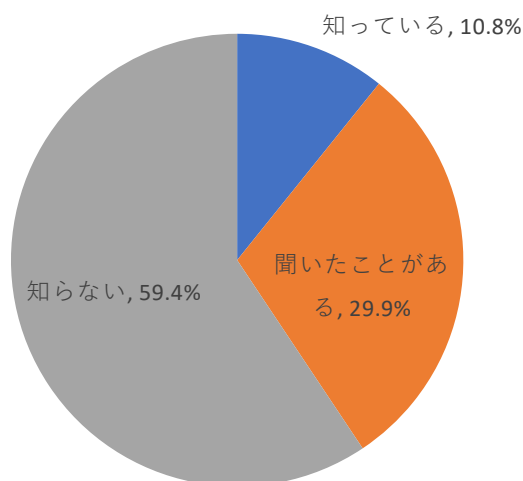
Q 1 5. 所有者が高齢などで判断能力が不十分となった場合、不動産の処分や金融資産の利用が制限されることがあることを知っていますか？（1つ選択）

■「知らない」59.4%で過半数以上を占める

■「聞いたことがある」29.9%／「知っている」はわずか10.8%

- ◆ 20代では「知っている」が25.0%と、唯一の20%台となった。
- ◆ 「聞いたことがある」は上の年代にいくほど割合が増えており、詳細は知らないものの、意識はしていることが見てとれる。
- ◆ 地域別では、四国は「知っている」が最少の5.8%で、最多の北海道と比較すると7.5pt差となった。

<2022年度 所有者が高齢などで判断能力が不十分となった場合、不動産の処分や金融資産の利用が制限されることへの認知度>



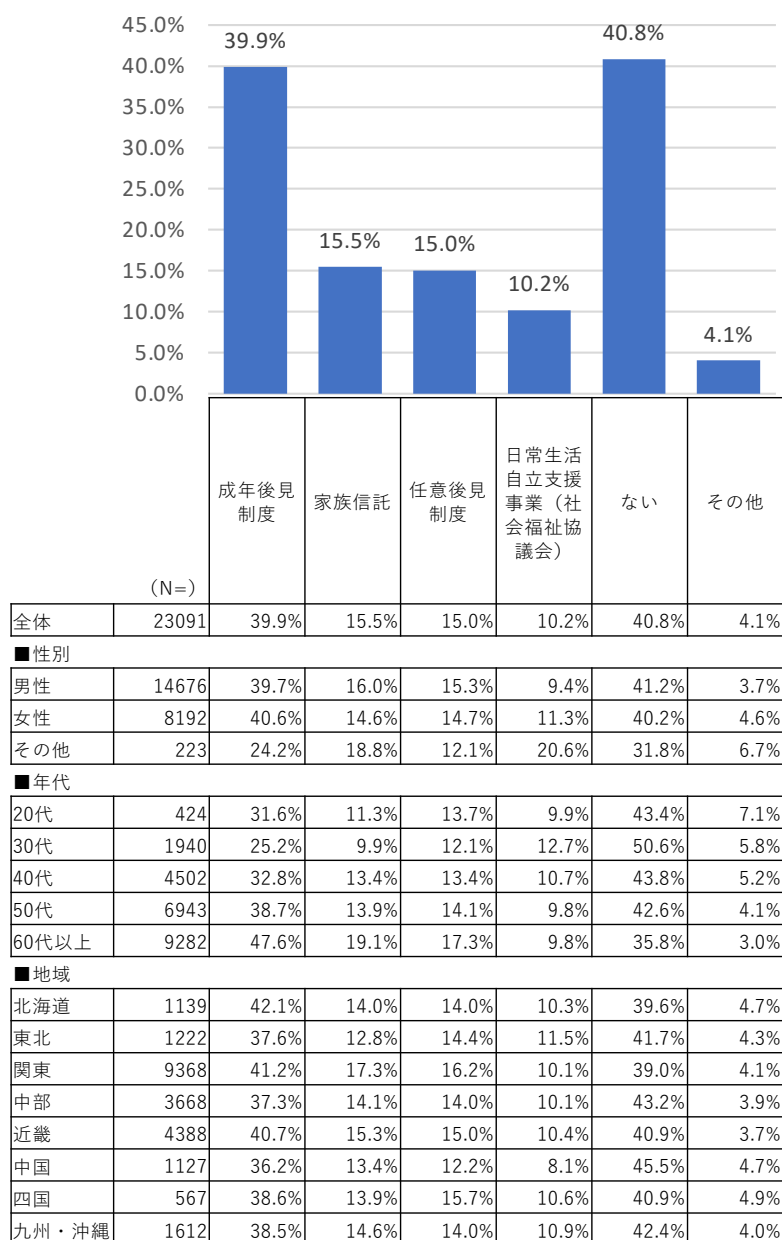
	(N=)	知っている	聞いたことがある	知らない
全体	23091	10.8%	29.9%	59.4%
■ 性別				
男性	14676	11.8%	31.3%	56.9%
女性	8192	8.8%	27.3%	63.9%
その他	223	16.6%	29.1%	54.3%
■ 年代				
20代	424	25.0%	20.3%	54.7%
30代	1940	7.7%	21.8%	70.6%
40代	4502	8.5%	27.0%	64.5%
50代	6943	9.9%	28.5%	61.6%
60代以上	9282	12.5%	34.4%	53.1%
■ 地域				
北海道	1139	13.3%	25.9%	60.8%
東北	1222	8.8%	30.3%	61.0%
関東	9368	12.4%	31.5%	56.1%
中部	3668	8.8%	27.9%	63.3%
近畿	4388	10.5%	30.7%	58.8%
中国	1127	8.4%	24.7%	66.9%
四国	567	5.8%	28.2%	66.0%
九州・沖縄	1612	9.6%	29.0%	61.4%

Q 1 5 - A. 所有者が高齢などで判断能力が不十分となった場合に利用できる制度として知っているものはありますか？（複数選択可）

- 「成年後見制度」が39.9%で最多
- 次点は「家族信託」15.5%、僅差で「任意後見制度」15.0%
- 制度として知っているものは「ない」が40.8%

- ◆ 制度として知っているものは「ない」が4割を占めており、いずれの制度も認知度が高いとは言えない。
- ◆ 「成年後見制度」「家族信託」「任意後見制度」は、60代以上では他年代よりも認知度が高い結果となった。

<2022年度 所有者が高齢などで判断能力が不十分となった場合、利用できる制度への認知度>

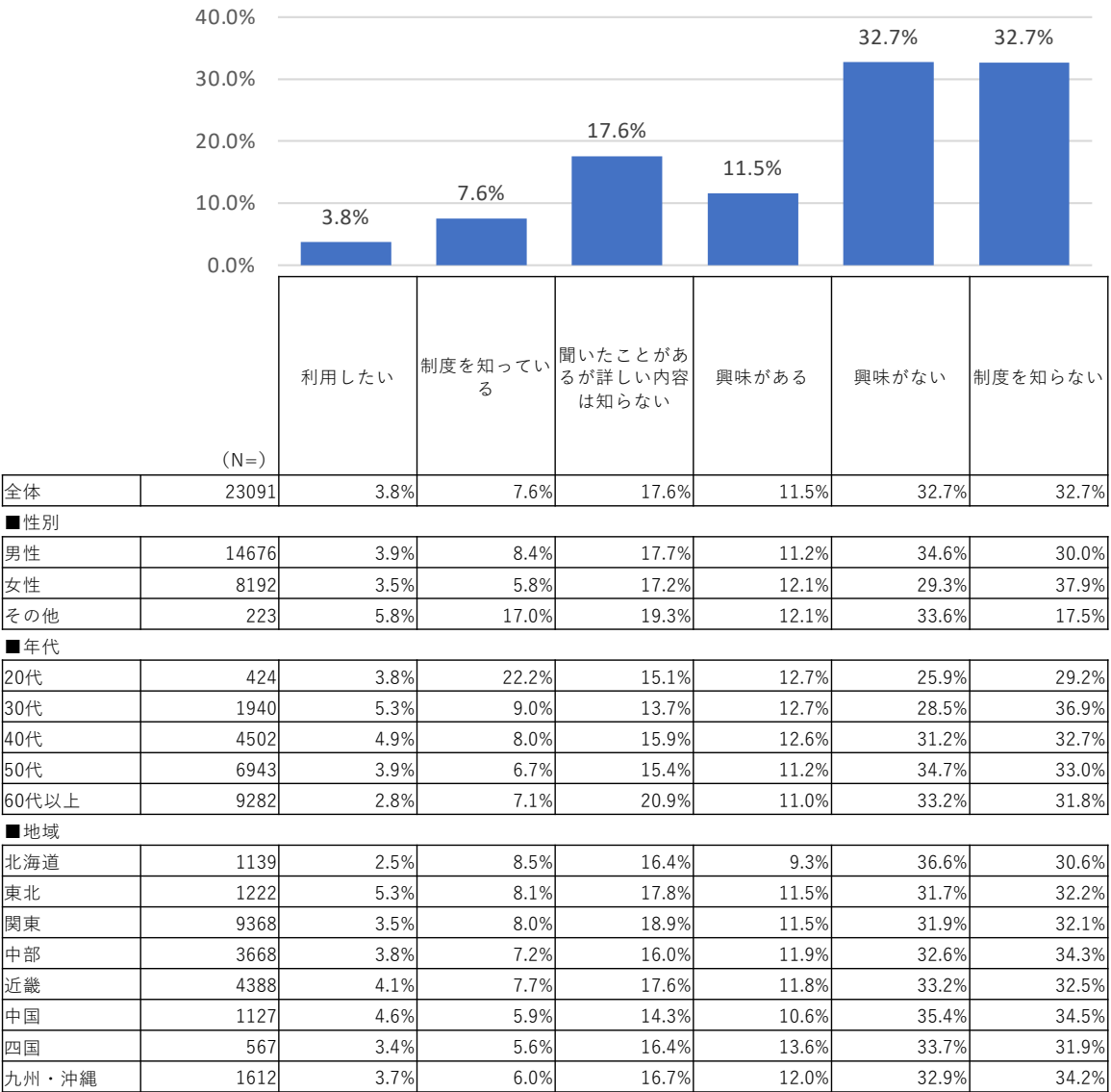


Q 1 5 ー B. 「所有者不明土地」が発生することを予防するため、相続等によって土地を取得した相続人が、一定の要件のもと、土地を手放して国庫に帰属させることを可能とする「相続土地国庫帰属制度」が、令和5年4月27日からスタートします。この制度について、あてはまるものを全て選んでください。（複数選択可）

- 「興味がない」／「制度を知らない」はそれぞれ32.7%
- 「利用したい」はわずか3.8%

◆ 20代では「制度を知っている」が22.2%と最も高く、50代の6.7%に対して、15.5ptも差を付けている。
◆ 「興味がある」は全年代とも11%～12%台であり、認知・関心が低い結果となった。

<2022年度 令和5年4月より開始する「相続土地国庫帰属制度」の意識>

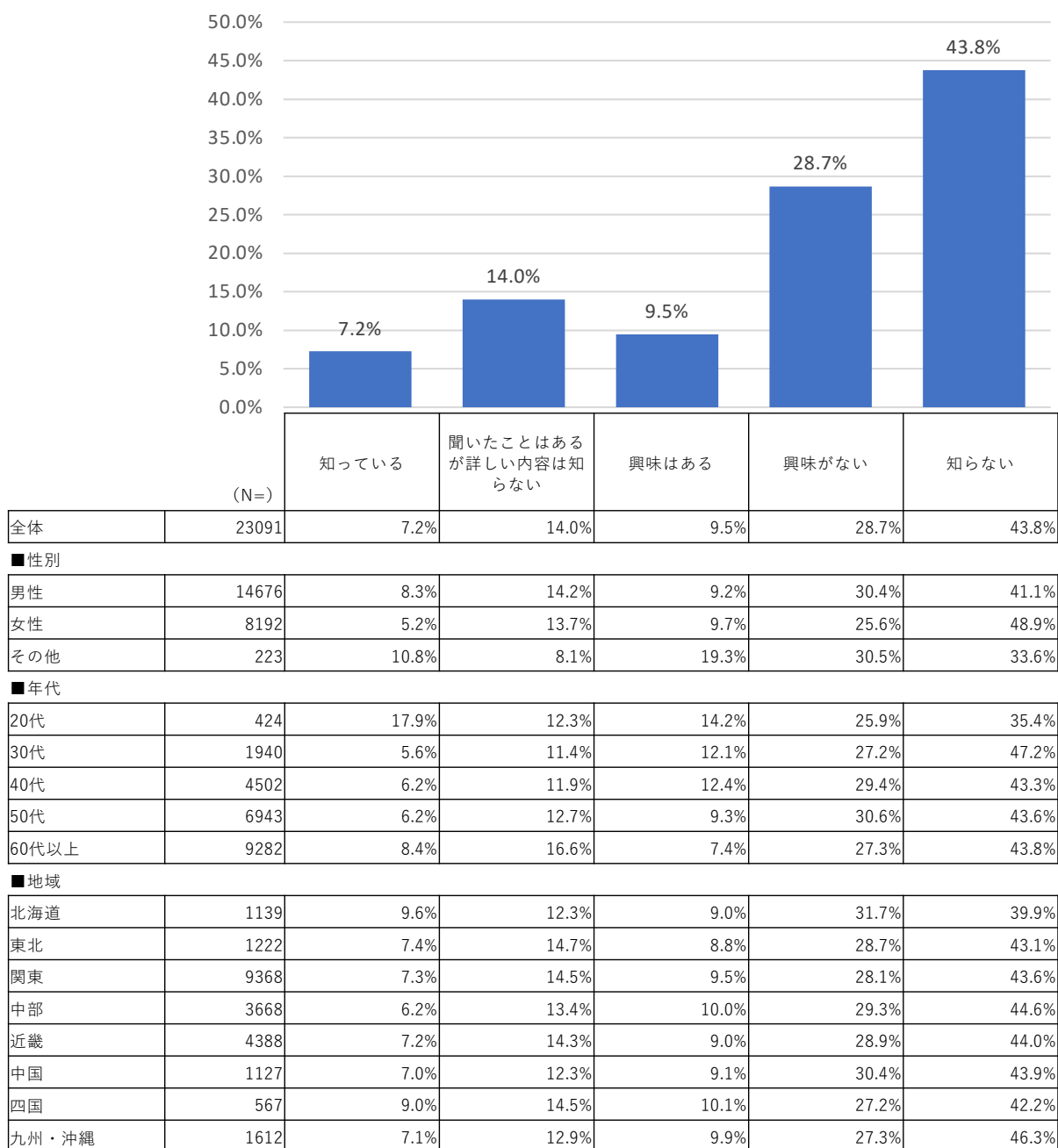


Q 1 6. 「所有者不明土地」が問題となっています。それに伴い令和6年4月1日から相続登記の申請が義務化され、怠ると10万円以下の過料の可能性があることをご存じですか？
(2つまで選択可)

- 「知らない」 43.8%とトップ、次点で「興味がない」 28.7%
- 「聞いたことはあるが詳しい内容は知らない」 14.0%

- ◆ 「知っている」は20代では17.9%と、他年代よりも高い水準となった。
- ◆ 「興味はある」は若い年代ほど高い結果。

<2022年度 令和6年4月より、相続登記の申請が義務化され、怠ると10万円以下の過料の可能性があることへの認知度>

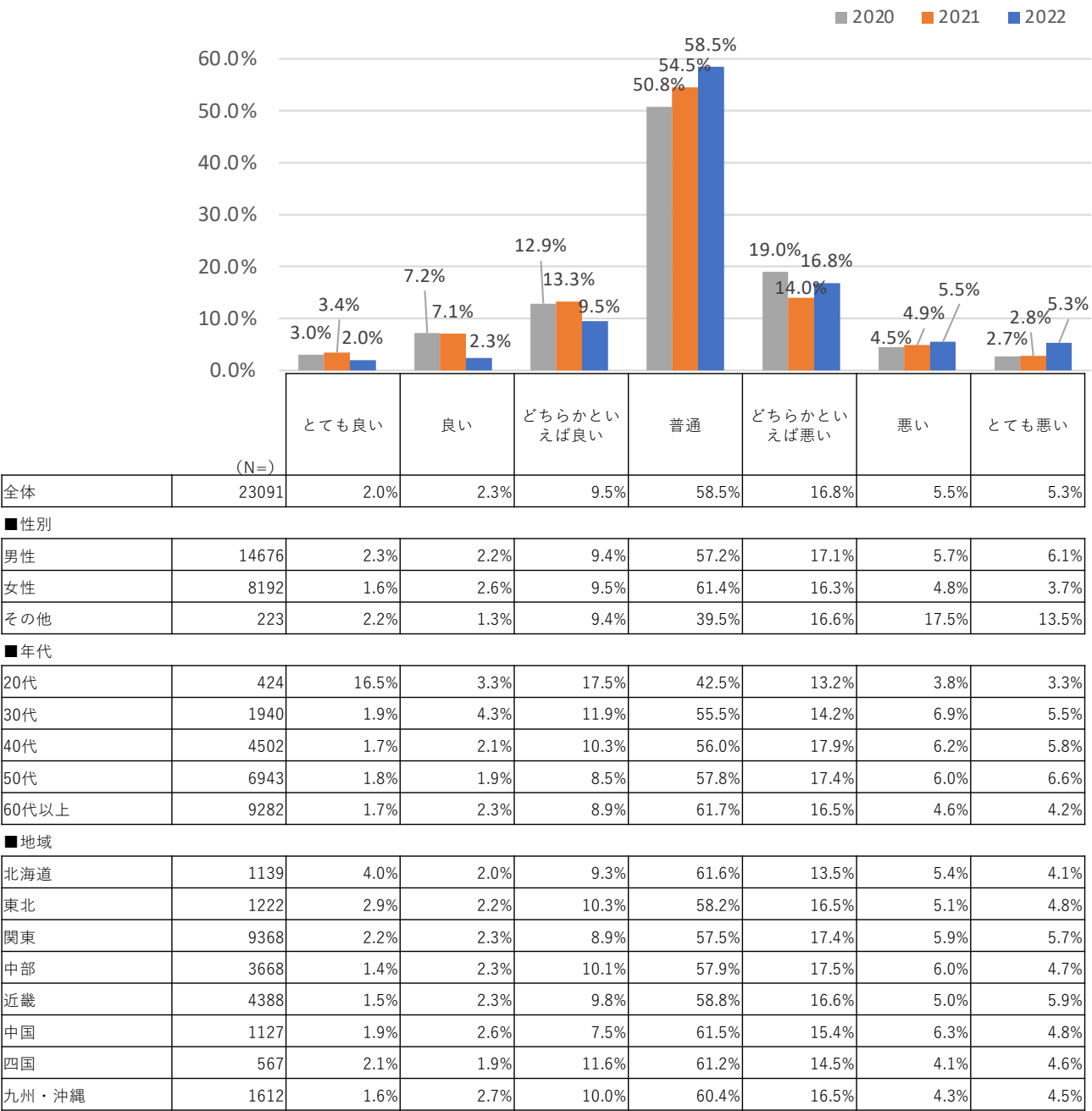


Q 17. あなたの不動産店に対するイメージとその理由をお答えください。（1つ選択）

- 「良い・計」 13.8 % (-10.0pt)
- 「普通」 58.5% (+4.0pt)
- 「悪い・計」 27.6% (+5.9pt)

- ◆ 若い年代ほど不動産店に対してポジティブなイメージを持っている傾向がみられた。
- ◆ 「普通」は3年連続で増加する結果となった。

<2022年度 不動産店に対するイメージ>



Q18. 家の売買や部屋の賃貸をするとき等、不動産店に対して最も期待することは何ですか？（1つ選択）

■ ダントツは、2021年度に引き続き「優秀な担当者」38.0%（-3.3pt）

■ 「店舗の雰囲気が良い」13.6%（-1.4pt）

■ 「自宅から近い」12.0%（+3.0pt）

- ◆ 「優秀な担当者」は性別、年代、地域ともにダントツの結果となった。
- ◆ 「店舗の雰囲気が良い」は若い年代ほど期待する傾向がみられた。20代が27.4%に対して60代以上は10.6%。
- ◆ 「自宅から近い」は上の年代ほど期待している。20代9.0%に対して60代以上は13.8%。
- ◆ 「ホームページやSNSページが充実している」は20代では12.3%と最も高く、60代以上の6.5%と比較すると倍近い結果。

< 2022年度 不動産店に対して、最も期待すること >

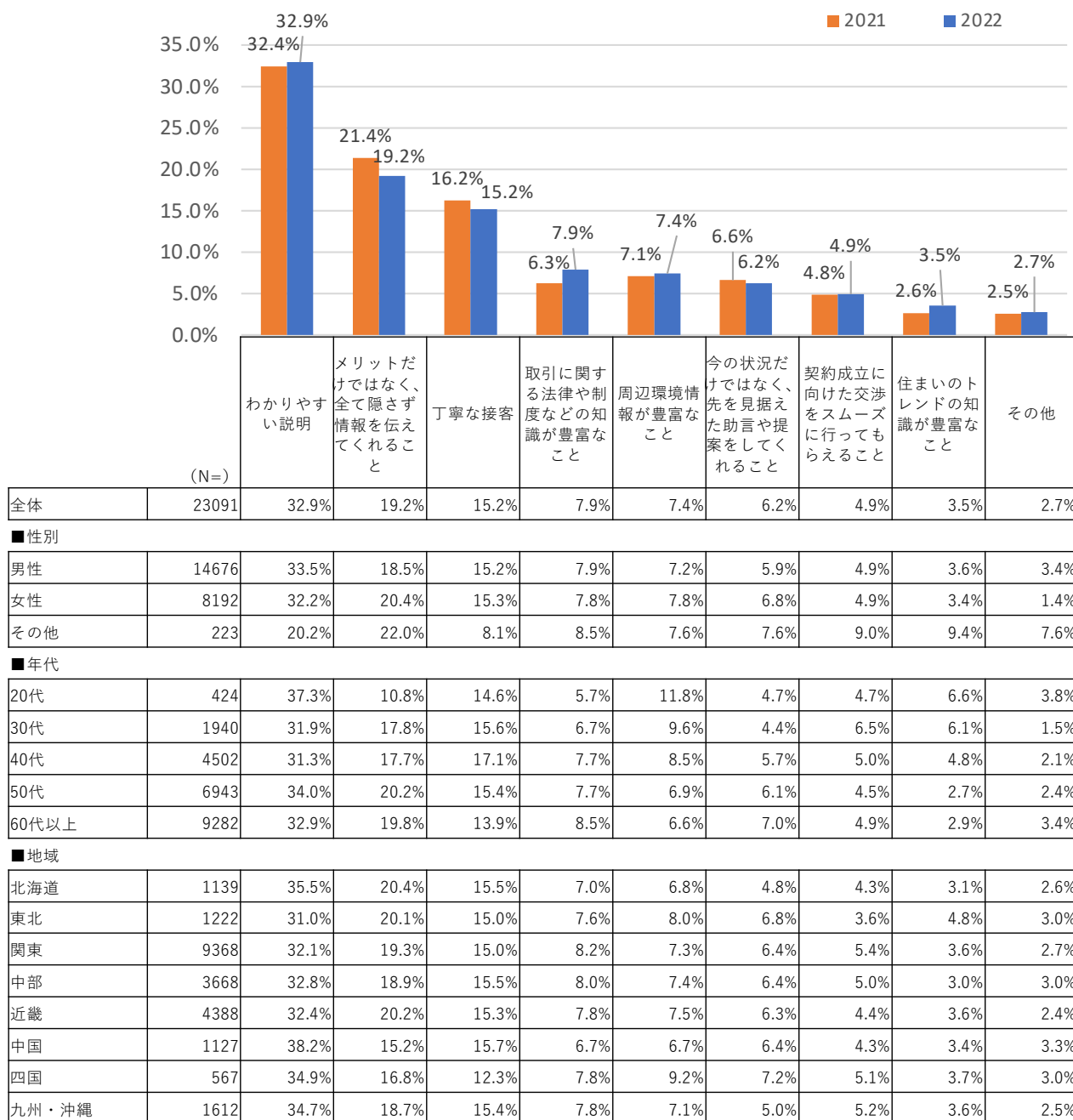


Q19. 家の売買や部屋の賃貸をするとき等、不動産店の担当者に対して最も期待することは何ですか？（1つ選択）

- 「わかりやすい説明」 32.9%（+0.5pt）
- 「メリットだけではなく、全て隠さず情報を伝えてくれること」 19.2%（-2.2pt）
- 「丁寧な接客」 15.2%（-1.0pt）

- ◆ 「メリットだけではなく、全て隠さず情報を伝えてくれること」は50代の20.2%、60代以上の19.8%に対し、20代では10.8%と、年代によって倍近くの差が生じた。
- ◆ 上位3つの回答以外は、1割未満の同水準の結果となった。

< 2022年度 不動産店の担当者に対して、最も期待すること >



Q 20. 安全な不動産取引ができるお店の証、ハトマークを知っていますか？ （1つ選択）

- 「見たこともあるし不動産店の信頼の目印であることも知っている」 24.2% (-8.8pt)
- 「見たことがあるが何のマークか知らない」 39.3% (+5.2pt)
- 「見たことがないし何のマークか知らない」 36.5% (+3.7pt)

- ◆ 2021年度調査と比較すると「見たこともあるし不動産店の信頼の目印であることも知っている」が減少し、「見たことがあるが何のマークか知らない」「見たことがないし何のマークか知らない」が増加。認知・理解ともに昨年を下回る結果となった。
- ◆ 地域別でみると、2021年度調査で最も認知率が高かった九州・沖縄は、今年度も「見たこともあるし不動産店の信頼の目印であることも知っている」がトップの39.0%と突出して高い結果となった。

< 2022年度 ハトマークの認知 >

- 見たこともあるし不動産店の信頼の目印であることも知っている
- 見たことがあるが何のマークか知らない
- 見たことがないし何のマークか知らない

